

# 磐越自動車道関係発掘調査報告書

よしがさわ  
吉ヶ沢遺跡A地点  
うえのたいら  
上ノ平遺跡B地点  
なか みね  
中 峰 遺 跡

1996

新潟県教育委員会  
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

# 磐越自動車道関係発掘調査報告書

よし が さわ  
吉ヶ沢遺跡A地点  
うえ の たいら  
上ノ平遺跡B地点  
なか みね  
中 峰 遺 跡

1996

新潟県教育委員会  
財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

## 序

磐越自動車道は、新潟県新潟市と福島県いわき市とを結ぶ高速道路で、開通すると人太平洋側と日本海側が結ばれると共に常磐・東北・北陸自動車道とも連結され、それぞれの地域の発展に多大な効果をもたらすものと期待されています。

新潟県教育委員会では、昭和59年以来磐越自動車道の建設に伴って、数多くの遺跡の発掘調査を行ってまいりました。平成6年7月には、新潟市から安田町までが開通し、現在完成にむけて着々と工事が進められています。

本書は、この道路の三川サービスエリア・釣浜大橋東詰の建設に先立って調査をした「吉ヶ沢遺跡A地点」・「上ノ平遺跡B地点」・「中峰遺跡」の発掘調査報告書です。調査の結果、これらの3遺跡では縄文時代の遺物や時期不詳の焼土坑が発見されています。

今回の調査結果が、今後の本県における縄文時代のみならず、歴史を解明するための一資料として広く活用され、広い意味で文化財に対する理解を深める契機にしていただければ幸いです。

最後に、本調査に対して多大なご協力とご援助を賜った地元の方々、ならびに三川村教育委員会をはじめ、日本道路公団新潟建設局・同津川工事事務所に対して厚く御礼申し上げます。

平成8年2月

新潟県教育委員会

教育長 平野清明

# 例　　言

1. 本書は新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字古ヶ沢6304に所在する古ヶ沢遺跡A地点、新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字上ノ山2035-8に所在する上ノ平遺跡B地点、及び新潟県東蒲原郡三川村大字小石取字中峰4710に所在する中峰遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は磐越自動車道二川サービスエリア・釣浜大橋東詰の建設に伴い、新潟県が日本道路公団から受託して実施したものである。古ヶ沢遺跡A地点と上ノ平遺跡B地点の発掘調査は、調査主体である新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が平成3年度に実施した。中峰遺跡の発掘調査は、調査主体である県教委が財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に調査を委託し、平成5年度に実施した。
3. 発掘調査の出土遺物は、一括して県教委が保存・管理している。出土遺物の注記記号は古ヶ沢遺跡A地点を「吉A」とし、上ノ平遺跡B地点は「上ノ平B」、中峰遺跡は「中ミネ」として出土地点と層位を併記した。
4. 整理および報告書作成にかかる作業は、県教委が埋文事業団に委託し、平成6年度に実施した。
5. 整理および執筆作業には大川原英智（埋文事業団主任調査員）が当たった。第Ⅰ章、第Ⅱ章2、4のA、第Ⅲ章2、4のAは関　洋介（専門員）が作成した資料・原稿をもとにして人川原が執筆した。  
全体は藤巻正信（調査第一係長）が調整し、修正・補筆のうえ編集した。
6. 本書に使用した遺跡・遺構写真は現地調査員が撮影し、遺物写真は藤巻が撮影した。
7. 発掘調査にあたり、三川村教育委員会のご協力を賜った。また、日本道路公団津川工事事務所から種々ご配慮をいただいた。
8. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々から御教示・助言を得た。厚く御礼申し上げる。

〔敬称略、五十音順〕

甘粕　健、荒木繁雄、伊藤正一、杉崎　巖、寺村光晴

# 目 次

## 第Ⅰ章 序 説

1. 遺跡の位置と環境 .....	1
2. 周辺の遺跡 .....	1
3. 調査に至る経緯 .....	1
4. 第一次調査 .....	2

## 第Ⅱ章 吉ヶ沢遺跡A地点

1. 調査体制 .....	4
2. 調査期間 .....	4
3. グリッドの設定 .....	4
4. 調査方法 .....	4
5. 基本層序 .....	5
6. 遺構と遺物 .....	5

## 第Ⅲ章 上ノ平遺跡B地点

1. 調査体制 .....	7
2. 調査期間 .....	7
3. グリッドの設定 .....	7
4. 調査方法 .....	8
5. 基本層序 .....	8
6. 遺構と遺物 .....	8

## 第Ⅳ章 中峰遺跡

1. 調査体制 .....	11
2. 調査期間 .....	11
3. グリッドの設定 .....	11
4. 調査方法 .....	12
5. 基本層序 .....	12
6. 遺構と遺物 .....	12

## 第V章 まとめ .....

14

## 参考文献 .....

15

## 插 図 目 次

- 図1 周辺の遺跡 ..... 2

## 図 版 目 次

### 図 面

- 図面1 調査範囲（三川サービスエリア・釣浜大橋東詰）  
図面2 調査地点とグリッドの設定  
図面3 古ヶ沢遺跡A地点グリッド設定図  
図面4 吉ヶ沢遺跡A地点遺構配置図・標準土層図・検出遺構  
図面5 吉ヶ沢遺跡A地点出土遺物  
図面6 上ノ平遺跡B地点グリッド設定図  
図面7 上ノ平遺跡B地点遺構配置図・標準土層図  
図面8 上ノ平遺跡B地点検出遺構  
図面9 上ノ平遺跡B地点出土遺物  
図面10 中峰遺跡グリッド設定図  
図面11 中峰遺跡遺構配置図・標準土層図・検出遺構  
図面12 中峰遺跡出土遺物

### 写 真

- 写真1 吉ヶ沢遺跡A地点全景・完掘状況・作業風景・近景  
写真2 吉ヶ沢遺跡A地点完掘状況・標準上層・下層確認  
写真3 吉ヶ沢遺跡A地点検出遺構  
写真4 吉ヶ沢遺跡A地点出土遺物  
写真5 上ノ平遺跡B地点全景・北側トレノチ  
写真6 上ノ平遺跡B地点完掘状況・検出遺構  
写真7 上ノ平遺跡B地点検出遺構  
写真8 上ノ平遺跡B地点検出遺構  
写真9 上ノ平遺跡B地点出土遺物  
写真10 中峰遺跡遠景・発掘前全景・作業風景・標準上層  
写真11 中峰遺跡完掘状況  
写真12 中峰遺跡検出遺構  
写真13 中峰遺跡出土遺物

## 第 I 章 序 説

### 1. 遺跡の位置と環境

吉ヶ沢遺跡、上ノ平遺跡、中峰遺跡の3つの遺跡は、ともに新潟県の北東部、東蒲原郡三川村に存在する。三川村の人口は約4,500人、面積は25km<sup>2</sup>で、3つの遺跡はこの西部に位置し、村の中央部を東から西に向かって流れる阿賀野川の河岸段丘上に立地している。[柳田1991]によると、この段丘面は柴崎面と呼ばれ、最終間氷期のある時期に形成されたものではないかとされる。

東蒲原郡地域は、北北東～南南西方向に走る新発田一小出構造線 [山下1970] の東側にあたる。当地域は、越後山脈から飯豊山地に連なる山々の北西部にあたり、山地は北北東～南南西の方向に走っている。山地の標高は、およそ700～900mで、三川村の西部には、石戸-長谷-葡萄平を結ぶ断層が1本走っている。この断層の西側は急峻な山地であるのに対し、東側は傾斜が比較的ゆるやかである。この断層にほぼ沿うような形で、石戸川、長谷川が流れている。阿賀野川は、北北東～南南西の山地列にはば直交するように流れしており、新谷川、弔ノ浪川などの支流は、山地列と平行に流れるものが多い。阿賀野川が山地列を横断する付近は、谷幅も狭く直線的であるが、山地と山地の間の凹部では、やや曲流している。河岸段丘はこの凹部にまとまって分布し、多くの支流はこのような地形の場所に流入している。

### 2. 周辺の遺跡(図1)

吉ヶ沢遺跡をはじめとする3遺跡の周辺には、特に津川盆地や阿賀野川・常浪川などの河岸段丘上に、多くの遺跡が存在している。縄文時代の遺跡が最も多く、岩陰や洞窟の遺跡も見られる。これらは山間部の河川沿いに立地し、狩猟、漁撈に関する遺物が残されている。

当該地域の遺跡については『上ノ平遺跡A地点』[沢田ほか1994]等に詳しく記述されているので、それらに譲る。

### 3. 調査に至る経緯

磐越自動車道の津川～安田間の路線は、昭和60年11月11日に発表された。これに伴い、遺跡分布調査が昭和62年11月24日～11月27日に県教委によって実施された。この時点では、No.26・27地点(吉ヶ沢・上ノ平両遺跡)範囲内において、遺物は発見できなかったが、地形から判断すると遺跡の存在する可能性があると考えられたので、今後に第一次調査が必要であると日本道路公団に報告した。

その後、平成元年3月6日～3月7日に、磐越自動車道津川工事事務所管内発掘予定地の踏査を行った。当時の遺跡の状況は、畠地と杉の植林地であった。当範囲は阿賀野川の河岸段丘上に位置し、ここより上流部では、河岸段丘面上に縄文時代の遺跡が多く存在するので、当範囲でも遺跡の存在する可能性があるものと考えられた。そこで、今後に第一次調査を実施するという方針で道路公団と協議した。公団側も当地域を工事工程上重要な地域と考え、用地買収を速やかに行うこと申し合せた。

これらを受けて、平成2年11月19日～12月27日にNo.26地点とNo.27地点の第一次調査を実施した。

#### 4. 第一次調査

### 4. 第一次調査

#### A. 調査体制

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 沢川徹夫）

管理總括 大島 主己（新潟県教育庁文化行政課長）

管理 吉倉 長幸（ “ 課長補佐）

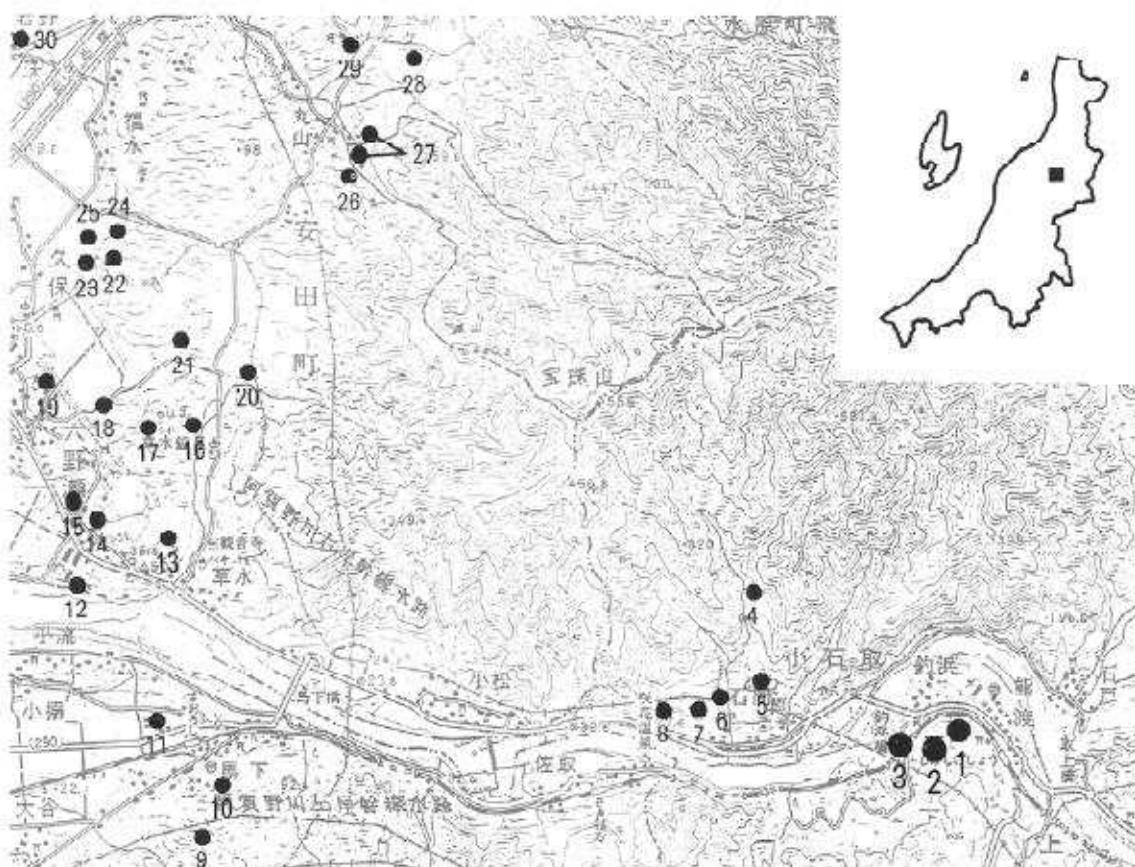
庶務 境原 信夫（ “ 主事）

調直指導 中島 栄一（ “ 埋蔵文化財第一係長）

本間 信昭（ “ 埋蔵文化財第二係長）

#### B. 調査方法

畠地は重機を使用し、植林地は人力によって調査した。調査トレンチは、基本的に重機が $2 \times 5$ m、人力は $1 \times 1$ mとして任意の位置に設定し、地表から徐々に掘り下げながら遺構・遺物の有無を確認した。



番	遺跡名	時代	番	遺跡名	時代	番	遺跡名	時代
1	上ノ平道跡	旧石器・縄文	11	馬丁稻場遺跡	縄文	21	徳正寺遺跡	縄文・中世
3	古ノ沢遺跡	旧石器・縄文	13	六ノ巣遺跡	縄文	23	霞殿塚遺跡	中世
5	中峰遺跡	縄文	15	赤坂山遺跡	縄文・中世窯跡	25	山ノ下遺跡	弥生
7	大平道跡	縄文	16	官林遺跡	縄文	26	五輪敷況遺跡	平安廃跡
9	上城遺跡	縄文	17	萩野遺跡	縄文	28	不多々遺跡	平安
10	蟹沢遺跡	縄文	18	円山道跡	旧石器・縄文	29	虚空藏山遺跡	縄文
12	中蟹沢遺跡	縄文	19	不動院遺跡	平安鉄跡	30	丸山遺跡	縄文
14	宜田遺跡	縄文	20	新潟A・日遺跡	縄文・平安			
16	竹林遺跡	縄文						
18	居下遺跡	縄文						

図1 周辺の遺跡 国土地理院 平成4年3月1日発行 津川 1/50,000

## C. 調査

## No.27地点（吉ヶ沢遺跡A地点）

担当者 山本 肇（新潟県教育庁文化行政課主任）  
 藤巻 正信（〃主任）  
 関 洋介（〃文化財専門員）

調査期間 平成2年11月19日～12月7日

## 検出された遺構と遺物

黒色土中から被熱集石遺構1基が検出されたほか、黄色土中から剝片2点を検出した。

## No.27地点（上ノ平遺跡B地点）

担当者 山本 肇（新潟県教育庁文化行政課主任）  
 藤巻 正信（〃主任）  
 関 洋介（〃文化財専門員）

調査期間 平成2年11月19日～12月7日

## 検出された遺構と遺物

焼土を伴う円形土坑が5基検出された。遺物は凹石1点・特殊磨石1点・剝片5点が検出された。

## No.26地点（中峰遺跡）

担当者 北村 亮（新潟県教育庁文化行政課主任）  
 川村三千男（〃文化財主事）

調査期間 平成2年11月26日～12月1日

## 検出された遺構と遺物

焼土を伴う直径1～2mの土坑が2基検出された。埋土中からはレンガが多量に出土している。地元住民の話では、この付近で磐越西線工事の際に使用したレンガを焼いたとのことで、これに関係する遺構と考えられる。なお、遺物は縄文土器片が4点と石核が1点出土している。

## D. 調査の結果（図面2）

No.26地点から縄文土器と石核が、No.27地点からは円形土坑等の遺構と磨石・円礫・剝片等の遺物が検出された。以上の結果に基づき、No.26地点とNo.27地点の第二次調査が必要と判断された。No.26地点は中峰遺跡、No.27地点は沢を挟んで南側の段丘面を吉ヶ沢遺跡、北側の段丘面を上ノ平遺跡と命名した。

## 1. 調査体制

# 第Ⅱ章 吉ヶ沢遺跡A地点

吉ヶ沢遺跡A地点（新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷字吉ヶ沢6304）は、阿賀野川左岸の河岸段丘上に立地し、磐越自動車道の三川サービスエリア建設予定地内に存在する。

## 1. 調査体制

調査主体 新潟県教育委員会（教育長 堀川徹夫）

管理 総括 大崎 主己（新潟県教育庁文化行政課長）

管理 吉倉 長幸（〃 課長補佐）

庶務 藤田 守彦（〃 主事）

調査指導 本間 信昭（〃 埋蔵文化財第二係長）

担当者 小田中美子（〃 文化財専門官）

関 洋介（〃 文化財専門員）

## 2. 調査期間

平成3年8月26日～9月26日

## 3. グリッドの設定（図面3）

吉ヶ沢遺跡A地点のグリッドの基線は真北方向をもとに設定した。第一次調査の測量杭を利用し、X軸はYA-1杭（国土地標192767、3・72290、464）とYA-2杭（国土地標192767、3・72310、464）の2点を結ぶラインとし、Y軸はYA-1杭とYA-3杭（国土地標192747、343・72290、464）の2点を結ぶラインとした。このX軸とY軸をもとに20mメッシュを組んで、これを大グリッドとした。グリッドの呼称は、X軸を北から南へローマ数字 I・II・III、Y軸は西から東へアルファベット A・B・Cというふうに設定した。大グリッド（20×20m）は10行10列に分け、2×2mの小グリッド100個に細分した。細分方法は、北西から南東に向かって1～100とした。従ってグリッドの呼称は、たとえばA-II-5というような表現になる。大グリッド杭の打設及びレベル値の測定は、業者委託とした。YA-1杭地点の小グリッド呼称はC-II-1となり、YA-2はD-II-1、YA-3はC-III-1、YA-4はD-III-1ということになる。なお、実際の調査対象となった範囲は、東西B～D、南北I～IIIの法線内である。

## 4. 調査方法

調査範囲は、平成2年度の第一次調査により、第二次調査必要面積を800m<sup>2</sup>としたが、旧石器時代の遺跡である上ノ平遺跡A・C地点・吉ヶ沢遺跡B地点に隣接しており、旧石器時代の遺物が存在する可能性もあるため、第二次調査を進行しつつ調査範囲を再確認していくこととした。遺構・遺物の検出状況を観

察しながら、バックホーで表土を除去し、その後、人力により包含層発掘を行った。検出された遺構は種類ごとに通し番号とし、半切・断面観察の後に完掘した。図面の縮尺は1/20を原則とした。

## 5. 基本層序 (図面4、写真2)

4層存在する。平坦な段丘面には均等に堆積している。I層は暗褐色の表土である。II層は茶褐色土で縄文時代の遺物包含層にあたる。I層とII層を合わせた平均層厚は約26cmである。IV層は黄色のローム層で、III層は漸移層である。III層の平均層厚は約18cmである。

## 6. 遺構と遺物

### A. 遺構

SK(土坑)3基とpit1基が検出されている。SK1・2は共通して平面円形、平底で、浅く、断面は偏平な逆台形様で、全体の形状はフライパン状を呈し、自然埋没と見られる。

#### SK1 (図面4、写真3)

発掘区の南辺、C-I-43・44・53・54区に位置する焼け土坑である。ローム上面で検出した。ほぼ円形で、大きさは上面径145cm・底面径115cmである。深さは一番深いところで47cmである。やや深いフライパン状を呈し、断面観察によると基本層序のII層を切り込んで設けられている。埋土は6層に細分できた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。2・3・4層に炭化物を含む。西側壁面に3cm厚で赤褐色に焼けた部分がある。土器等の遺物は検出されなかった。

#### SK2 (図面4、写真3)

発掘区の中央よりやや南側、C-II-85・86区に位置する焼け土坑である。ローム上面で検出した。ほぼ円形で、大きさは上面径113cm・底面径101cmである。深さは一番深いところで約40cmである。底面は比較的平らで、浅いフライパン状を呈する。埋土は4層に分けられた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。2・3・4層で木炭が検出され、2・4層で特に多い。壁の西側から南側にかけて、赤褐色に焼けた部分がある。土器等の遺物は検出されなかった。

#### SK3 (図面4、写真3)

発掘区の北側、C-II-2・12区に位置する。ローム上面で検出した。上面はほぼ円形であるが、下面は南北にやや長い長円形である。大きさは、上面径約50cm・底面径30cm前後で、深さは約5cmと浅い。この地区の中では比較的小規模な遺構である。埋土は1層のみで、茶褐色土が厚さ5cm前後で堆積している。炭化物が小量混入しているが、壁などに熱を受けた様子はない。土器等の遺物は検出されなかった。

#### pit1 (図面4、写真3)

発掘区の中央部よりやや南西、C-II-93区に位置する。ローム上面で検出した。平面形は南北に長い長円形である。北側は急傾斜であるが、南側は緩やかになっている。底部は狭く、断面はバケツ状を呈す

## 6. 遺構と遺物

る。大きさは上面が長径51cm・短径43cmで、底面は長径20cm・短径12cmである。深さは45cmで、埋土は1層のみ。ピットは当遺構1基のみの検出であり、他には検出されなかった。他の遺構との関係も不明である。土器等の遺物は検出されなかった。

### B. 遺 物

縄文土器・磨石・磨製石斧・剝片がある。

#### 縄文土器 (図面5、写真4)

3点出土している。3と1はII層から、2はIII層から検出された縄文土器の小破片である。3はB-II-50区から検出された上器底部片である。底径は約9cmになると推定される。1はC-I-100区から検出された口縁部片である。丸味のある口縁部直上に、沈線によって径2cmの円形状の装飾を作り出している。どちらも風化が著しくボロボロになっているが、胎土に白色砂粒を含み、1は更に纖維を含む。前期に属するものと思われる。2はC-II-43区から検出された口縁部付近の破片である。浅鉢と見られ、外面は無文であるが、内面には3条の弧状並行沈線が施されている。胎土は細かく、精良で、3・1より薄手で、風化も進んでいない。外面に炭化物が付着している。後期の所産かと思われる。

#### 磨 石 (図面5、写真4)

2点出土している。4はC-III-14区のII層から検出された。流紋岩の扁平長円礫を利用している。図左側縁に半坦な磨痕が認められる。大きさは長径16cm・短径9cmで、重さは985gである。磨痕は長さ10cm・幅1.5cmである。5はB-II-50区のII層から検出された。結晶片岩の棒状礫で、長軸の両端部に敲打痕が認められる。長さは13.5cm・幅は4cmで、重さは255gである。敲打痕は大きな方が長径1.5cm・短径1.1cmである。

#### 磨製石斧 (図面5、写真4)

1点出土している。6はC-III-14区のII層から検出された。微細ハニレイ岩を使用している。体部以上が欠損しているため全長は不明であるが、最大幅は5.5cmで、重さは220gである。両刃でやや円刃となっている。刃部及び体部再生のための再研磨前の整形剥離及び使用による刃部のカケが認められる。

#### 剝 片 (図面5、写真4)

1点出土している。7はC-I-85区のII層から検出された。鉄石英または赤チャートの剝片で、長さ5.2cm・幅3.2cm・重さは20gである。図正面の大部分が自然面である。

## 第Ⅲ章 上ノ平遺跡B地点

上ノ平遺跡B地点（新潟県東蒲原郡三川村大字上戸谷渡字上ノ山2035-8）は、阿賀野川左岸の河岸段丘上に立地し、磐越自動車道の三川サービスエリア建設予定地内に存在する。第Ⅱ章の吉ヶ沢遺跡A地点から東北東にわずか100mの地点に位置する遺跡である。

### 1. 調査体制

調査主体	新潟県教育委員会（教育長 柳川徹夫）		
管理 総括	入嶋 圭己（新潟県教育庁文化行政課長）		
管理	吉倉 長幸（	〃	課長補佐）
庶務	藤田 守彦（	〃	主事）
調査指導	本間 信昭（		
担当者	小田由美子（		
	文化財専門員）		
	関 洋介（		
	文化財専門員）		

### 2. 調査期間

平成3年10月1日～11月22日

### 3. グリッドの設定（図面6）

グリッドの基線は真北方向をもとに設置した。基本的には、第Ⅱ章の吉ヶ沢遺跡A地点のグリッド設定と同様の方法である。X軸はUB-1杭（国土地標192813、978・72420、210）とUB-2杭（国土地標192813、978・72440、210）の2点を結ぶラインとし、Y軸はUB-1杭とUB-3杭（国土地標192798、978・72420、210）の2点を結ぶラインとした。このX軸とY軸をもとに20mメッシュを組んで、これを大グリッドとした。グリッドの呼称は、Y軸を北から南へローマ数字I・II・III、X軸を西から東へアルファベットA・B・Cというふうに設定した。大グリッド（20×20m）は10行10列に分け、2×2mの小グリッド100個に細分した。細分方法は、北西から南東に向かって1～100とした。従って小グリッドまでの呼称は、たとえばR-III-50というような表現になる。大グリッド杭の打設及びレベル値の測定は、業者委託とした。UB-1杭地点の小グリッド呼称は、B-III-1となり、UB-2はC-III-1、UB-3はB-IV-1、UB-4はC-IV-1ということになる。なお、実際の調査対象範囲は、B-III区を中心で、その周辺は必要に応じてトレシチを設定して行った。

#### 4. 調査方法

### 4. 調査方法

吉ヶ沢遺跡A地点から非常に近く、旧石器時代の遺物が存在する可能性もあるため、第二次調査を進行しつつ調査範囲を再確認していく事とした。バックホーで表土を除去した後、人力により包含層発掘を行い、遺構確認を行った。検出した遺構は通し番号とし、半切・断面観察の後、完掘した。図面の縮尺は1/20を原則とした。

### 5. 基木層序（図面7）

4層存在する。I層は暗褐色の表土で、II層は茶褐色である。I層とII層を合わせた平均層厚は約26cmで、吉ヶ沢遺跡A地点と同様である。IV層は黄褐色のローム層（地山）で、III層は漸移層である。III層の平均層厚は約18cmである。

### 6. 遺構と遺物

#### A. 遺構

土坑のみ9基検出された。SK-6を除き、いずれも平面円形で、浅く、フライパン状を呈する。壁・床面が焼けているものがあり、共通して埋土中に炭化物を含む。

#### SK1（図面8、写真7）

発掘区の中央部よりやや北側、B-III-15・25区に位置する深い土坑である。ローム上面で検出した。上面はほぼ円形であるが、下面是東西にやや長い長円形で、フライパン状を呈する。大きさは、上面が径約130cm、底面は長径約80cm・短径約70cmである。深さは最深部で約30cmである。壁はゆるやかな曲線を描き、底面は比較的平らである。埋土はレンズ状堆積で自然埋没と見られる。4層に分層でき、3層に炭化物が小量混在している。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

#### SK2（図面8、写真7）

発掘区の北東部、B-III-19区に位置する深い焼け土坑である。ローム上面で検出した。平面形状は、東西に長い長円形である。大きさは、上面が長径125cm・短径105cmで、底面は2段になっており、長径112cm・短径98cmである。深さは最深部で35cmあり、壁の傾斜は比較的急である。床面の半分近く、アルカイークの範囲が赤く焼けている。埋土は10層に細分できた。おおむねレンズ状堆積で、自然埋没と見られる。中層で著しい焼土を検出した。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

#### SK3（図面8、写真7）

発掘区の西側、B-III-41区に位置する深いフライパン状の小型土坑である。ローム上面で検出した。ほぼ円形で、大きさは上面が直径約70cm、底面が直径約60cmである。深さは、いわばん深いところでも10cm以下と浅い。この地区の遺構の中では、最も小さくてしかも浅いものである。埋土は2層に分けられ、

レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。2層に炭化物が混入している。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## SK 4 (図面8、写真7)

発掘区の南西、B-III-93区に位置する浅いフライパン状の土坑である。ローム上面で検出した。やや卵形に近い円形で、大きさは上面が長径157cm・短径146cm、底面が長径100cm・短径87cmである。深さは最大42cmである。壁の傾斜は比較的ゆるやかである。埋土は5層に分けられた。自然埋没と見られる。2層には炭化物が混入し、4層は炭化物層で厚さは約5cmである。底面に帶状の炭化物が存在した。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## SK 5 (図面8、写真8)

発掘区の南端、B-IV-71・72・81・82区に位置する。ローム上面で検出した。ほぼ円形で浅く、フライパン状を呈する。基本層序のII層を切り込んで設けられている。大きさは、上面が径約120cm・下面が90cmで、深さ約30cmである。底面は平坦で、壁の傾斜も比較的ゆるやかである。埋土は4層に分けられ、レンズ状堆積で自然埋没と見られる。4層には炭化物がかなり混入している。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## SK 6 (図面8、写真8)

発掘区の北西部、B-IV-72区に位置する。ローム上面で検出した。長梢円形を呈する。大きさは、上面の長径は約190cm・短径約80cmであり、底面の長径86cm・短径28cmである。底面は2段になっており、深さは深いほうで約30cm・浅いほうで約10cmである。あるいは2基の重複ではないか。埋土は3層に分けられ、レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## SK 7 (図面8、写真8)

発掘区の北側、B-II-78区に位置する。ローム上面で検出した。基本層序のII層を切り込んで設けられている。ほぼ円形の浅いフライパン状を呈する。大きさは、上面が径135cm・底面は径115cmで、深さは約30cmである。底面中央に直徑36cmほどの浅いくぼみが見られる。埋土は3層に分けられた。レンズ状堆積で自然埋没と見られる。4層は炭化物や焼土の細かい粒子を含む。当遺構からは遺物は検出されなかった。

## SK 8 (図面8、写真8)

発掘区の北東部、C-II-61区に位置する。ローム上面で検出した。ほぼ円形で大型のフライパン状を呈する。大きさは、上面径約190cm・底面径約160cmで、深さは約40cmである。底面は半らで広く、壁は急傾斜である。壁面はほぼ全面にわたって被熱し、厚さ3cm程赤変している。床面もところどころ赤変している。埋土は15層に細分された。7層には焼土や炭化物が混入している。8層は炭化物を多く含む層である。9層には炭化物が混入し、10層には炭化物と焼土が混在している。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## 6. 遺構と遺物

### SK 9 (図面8、写真8)

発掘区の北側、B-II-65・66・75・76区に位置する。ローム上面で検出した。ほぼ円形で浅いフライパン状を呈する。大きさは、上面径約105cm、底面径が約100cmで、深さは約20cmである。床面には被熱による赤変が見られる。埋土は3層に区分できた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。1層は炭化物粒を多く含む。3層は炭化物や焼土を多く含む。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## B. 遺物

縄文土器・三脚石器・不定形石器・磨石・磨製石斧が採取された。遺構に係るものではなく、いずれも表採または遺物包含層上であった。

### 縄文土器片 (図面9、写真9)

5点出土している。遺構出土のものではなく、遺物包含層から検出されたのは1と2で、他は表採資料である。共通して胎十に石英粒・白色粒を多く含み、金雲母がわずかに含まれる。いずれも風化が著しくボロボロで詳細な観察はできないが、1~4の4点に縄文が施されている。5は無文の底部片である。口縁部は検出されていない。

### 三脚石器 (図面9、写真9)

1点出土している。6は表採資料である。全体は厚みのある三角形状で、図正面右側縁・下辺は両面から剝離を加えられ、図正面左側縁は古い大きな剝離面で裏面側から細かな剝離を加えられた結果、三辺は微細な鋸歯線状となっているが、肉眼では使用痕は観察されない。頁岩、下辺長約6.5cm、右辺長約5cm、左辺長約4cm、厚さ約2.5cm、重さ107gである。

### 不定形石器 (図面9、写真9)

1点出土している。7はB-III-22区のII層から検出された。大振りな打割による板状の石核で、正方形に切断した後、図正面の下辺に裏面からの急角度の剝離が集中して加えられ、大きく湾曲したノッチ状になっている。また、下辺の先端に両面からの微細な剝離が認められる。頁岩、約5cm×5cm、厚さ約2.5cm、120gである。

### 磨石 (図面9、写真9)

1点出土している。8は表採資料である。石英粗面岩の棒状自然隕を利用して、図正面左側縁と上下端に磨面・敲打面が存在する。長径19cm・短径8cm・重さ1,080gである。

### 磨製石斧 (図面9、写真9)

1点出土している。9は表採資料である。風化が著しく、磨面の大部分が剥落してしまっているが、形状はよく残っている。刃部を欠失しているが、全長は15cm程と推測される。微細ハンレイ岩製である。

## 第IV章 中 峰 遺 跡

中峰遺跡（新潟県東蒲原郡三川村大字小石取字中峰4710）は、第II章の吉ヶ沢遺跡A地点から西の方に約300m、第III章の上ノ平遺跡B地点から西南西に約400mの地点に位置する。阿賀野川左岸の河岸段丘上に立地し、磐越自動車道の釣浜大橋東詰建設予定地内に存在する。吉ヶ沢・上ノ平の両遺跡と近接するが、中峰遺跡の占地する段丘はそれらよりも一段低位に位置している。

### 1. 調査体制

主 体	新潟県教育委員会（教育長 本間栄三郎）
調査	財團法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長 本間栄三郎）
管 理	藍原 直木（事務局長） 渡辺 耕古（総務課長） 茂田井信彦（調査課長）
庶 務	藤田 守彦（総務課主事）
指 導	藤巻 止信（調査課調査第一係長）
担当者	沢田 敦（調査課専門員） 中沢 毅（調査課主任） 大杉 真実（調査課嘱託）

### 2. 調査期間

平成5年4月12日～5月20日

### 3. グリッドの設定（図面10）

グリッドの基線は真北方向をもとに設置した。X軸はYB-1杭（国土地標192757、813・72137、274）とYB-2杭（国土地標192757、813・72157、274）の2点を結ぶラインを真北に30m平行移動したものとし、Y軸はYB-1杭とYB-3杭（国土地標192737、813・72137、274）の2点を結ぶラインを真西に220m平行移動したものとした。これらの基準杭は、同年に調査された吉ヶ沢遺跡B地点の基準杭と同じものである。このX軸とY軸をもとに10mメッシュを組んで、これを大グリッドとした。グリッドの呼称は、X軸を西から東へ算用数字1・2・3といつぶつにし、Y軸を北から南へアルファベットA・B・Cというふうに設定した。そして、大グリッド（10×10m）を5行5列に分け、2×2mの小グリッド25個に細分した。細分方法は、北西から南東に向かって1～25とした。従って小グリッドまでの呼称は、たとえばB-4-25というような表現になる。大グリッド杭の打設及びレベル値の測定は、業者委託とした。なお、実際の調査対象となった範囲は、東西2～7、南北B～Eの法線内である。

#### 4. 調査方法

### 4. 調査方法

調査範囲は、平成2年度の第一次調査により780m<sup>2</sup>を第二次調査必要面積とした。まずバックホーで表土を除去し、その後人力により包含層発掘を行い、遺構検出を行った。包含層発掘は、一度に深くは掘り下げる、ジョレンを用いて数cm毎繰り返し行った。出土した遺物は土柱として残し、位置・レベル値を台帳に記録した。遺構は半切・断面の後、完掘した。断面は1/20、平面は1/40で図化した。

### 5. 基本層序（図面11、写真10・11）

4層存在する。I層は細耕作土及び山林腐植土の表土で、平均層厚は約20cmである。II層は茶褐色土の遺物包含層で、平均層厚は約15cmである。ただし、II層は部分的にIIa層とIIb層に分層し、前者は暗茶褐色土で、後者は黒褐色土である。III層はII層とIV層の漸移層である茶褐色土で、平均層厚は約11cmである。IV層は地山で、色調は黄褐色土のローム層又は灰褐色の粘土層である。

### 6. 遺構と遺物

#### A. 遺構

浅く、ノライバン状を呈する土坑が3基検出された。

#### SK1（図面11、写真12）

発掘区の南東部、C-5-19・20・24・25区に位置する。ローム上面で検出した。ほぼ円形を呈し、大きさは上面径171cm・底面径108cmである。深さは約30cmで錐底状を呈し、底面は比較的平らである。埋土は3層に細分できた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。各層は多量の炭化物と焼土を少し含んでいた。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

#### SK2（図面11、写真12）

発掘区の北部、B-4-2・3区に位置する。ローム上面で検出した。上面は不整楕円状であるが、下面是円形である。大きさは、上面が長径約120cm・短径約110cmで、底面は径約90cmである。深さは最深部でも16cmで、当遺跡の中では最も深い。埋土は3層に細分できた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。1層は炭化物を多く含んでいる。3層は炭化物と焼土を多量に含んでいる。3層も焼土を含み、炭化物も少量ではあるが含んでいる。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

#### SK3（図面11、写真12）

発掘区の北西部、B-2-23区に位置する。ローム上面で検出した。ほぼ円形を呈する。大きさは上面径約110cm・底面径約80cmである。底面は平らで錐底状を呈し、深さは約25cmである。埋土は4層に細分できた。レンズ状堆積で、自然埋没と見られる。1層は炭化物を多量に含んでいる。2層は炭化物を少量含んでいる。3層も炭化物を含んでいる。4層は炭化物を多量に含む。当遺構からは土器等遺物は検出されなかった。

## B. 遺物

土器はなく、石錐・搔器・局部磨製石斧等がある。いずれも遺物包含層の出土で、遺構に係らない。

## 石錐（図面12、写真13）

1点出土している。1はC-4-12区のⅢ層から検出された。先端部は欠失しており、現存部分は長さ23mm・幅5mm・厚さ2.4mm・重さ0.4gである。珪化玉髓の縦長剝片を用い、曲側縁に図上半は裏面から、下半は両面から調整剝離が加えられている。

## 搔器類（図面12、写真13）

2点出土している。2はD-4-15区のⅡa層から検出された。頁岩の残核を利用したもので、長さ約7cm・幅約2cm・厚さ約1.5cm・重さは約20gである。図正面右側縁及び下縁に裏面側からの調整が加えられている。3はB-2-15区のⅡa層から検出された。角礫状の凝灰岩質流紋岩で、図正・裏面に原石面を残し、他の面も節理面に覆われている。長さ約7cm・幅約6cm・厚さ約2.5cm・重さ120gである。図裏面右辺及び下辺左端に正面側からの片面調整が集中する。裏面左辺・止面右辺上端にも、わずかな調整が認められる。

## 不定形石器（図面12、写真13）

遺構出土のものはない。4点を報告する。1はC-3-14区のⅡa層、5はB-2-20区のⅡa層、6はB-4-21区のⅡa層、7はB-2-25区の攪乱層からそれぞれ検出された。4は抉入石器。もとは搔器類の刃部片と見られ、図左側縁に裏面側からの急角度の調整を加えて厚刃を作出している。刃縁は使用によってかなりツブレている。図正面側からの入力によって欠損したもので、この欠損後に図下辺に正面側から調整を加え、急角度の抉入部を作出している。頁岩製で、12gである。5は流紋岩の剝片を利用し、左辺を折断された直角三角形に近い形状で、刃部は正面側から細かな片面調整を施されている。長さ約7cm・刃部幅4cm・厚さ約1cm・重さ15gである。6は厚さ約4cmの流紋岩の縦長剝片の両側縁に、図裏面側からの剝離が加えられ鋸歯状になっている。中位で折損しているが幅は約7cmである。7は流紋岩の縦長剝片を利用して、図正面左側縁に裏面からの調整剝離を加えて片刃直刃を作出している。長さ約8cm・刃部長約4.5cm・幅約6.5cm・厚さ約1.5cm・重さ約100gである。

## 局部磨製石斧（図面12、写真13）

1点出土している。8はC-3-14区のⅡ層から検出された。頁岩を用いたもので、図止面中央付近からの入力によって折損し、刃部のみ残存している。残存部分は全体の4分の1ほどであろうと推測される。大きさは刃の幅が約10cm・長さは20cmほどと考えられる。図裏面の右半に原石面を残し、大小の剝離で形を整え、原面・剝離面の上から研磨を加えている。研磨痕の分布は刃部に偏っている。

## 剝片（図面12、写真13）

1点を報告する。9はC-3-2区のⅡa層から検出された。流紋岩の縦長剝片で調整はされていない。長さ約4.5cm・幅約7cm・厚さ約1cm・重さ約45gで、剝離面を再調整せずにそのまま打面としている。剝片の正・裏面はネガ・ポジの相似形で、打点も近接しており、連続剝離されたものである。

## 第V章 まとめ

吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡の3遺跡は、吉ヶ沢遺跡B地点・上ノ平遺跡A [沢田ほか1994]・C地点と共に磐越自動車道三川サービスエリア内に存在する。この範囲は阿賀野川左岸の河岸段丘上にあって、吉ヶ沢遺跡A地点とトノ平遺跡B地点の距離は約100m、吉ヶ沢遺跡A地点と中峰遺跡の距離は約300mと近接している。段丘を開析してできた沢を挟んでそれぞれ隣り合せになっている。ただし、標高は吉ヶ沢遺跡A地点が約71m、上ノ平遺跡B地点が約73mであるのに対し、中峰遺跡は約57mで他の2遺跡よりも一段低い河岸段丘上に立地している。

遺構は吉ヶ沢遺跡A地点で土坑8基とピット1基、上ノ平遺跡B地点で土坑9基、中峰遺跡で土坑3基がそれぞれ検出されている。これらは、共通して平面円形で、浅く、フライパン状を呈し、埋土はレンズ状堆積で自然埋没と見られるものが多い。それらには「焼け土坑」とした壁や床が焼けているものが認められ、埋土中に焼土・炭化物を含む場合が多い。更に、木炭層が認められる場合もある。ローム上面で検出したものが多いが、断面観察によると基本層序のII層を切り込んで設けられたものであることがわかる例もある。これらの土坑は、下表のように壁・床の焼けている状態、埋土の状況などから炭焼窯であると考えられる。更に、発掘調査範囲及びその付近に、これに係ると思われる集落・遺構が存在しないこと、また焼土坑内やその近辺に文化遺物が存在しないこと、及び焼け土坑内から骨片等も検出されないことから、他の性格の遺構であるとは考えられない。関連する出土遺物がなく、理科学分析もしていないので、時期を特定することはできないが、このような炭焼窯と考えられる十坑は、隣接する上ノ平遺跡A地点や同C地点、吉ヶ沢遺跡B地点、安田町赤坂山遺跡でも検出されている。

遺構	焼け の位置	埋 土 の状況	切込面	遺構	焼け の位置	埋 土 の状況	切込面	遺構	焼け の位置	埋 土 の状況	切込面
吉SK-1	壁	炭	II層	SK-3		炭		SK-0	床	炭・焼	
SK-2	壁	木・炭		SK-4		木					
				SK-5		炭	II層	中SK-1		炭・焼	
上SK-1		炭		SK-7		炭・焼	II層	SK-2		炭・焼	
SK-2	床	焼		SK-8	壁・床	炭・焼		SK-3		炭	

埋土の状況（炭け炭化物、木け木炭、焼け焼土）

遺物の大半は縄文時代遺物包含層から検出されているが、土器の出土量は特に少なく、3遺跡とも縄文土器片が数点検出されたに過ぎず、復元できるものはなかった。近接する上ノ平遺跡A地点や同C地点、吉ヶ沢遺跡B地点では旧石器時代の遺物が多数出土しているが、本書の3遺跡では皆無である。中峰遺跡の中央部には沢の跡があり、大部分の遺物はこの沢の中から出土している。このような状況から中峰遺跡の遺物の多くは沢に捨てられたものか、又は流れてきたものであろうと考えられる。

縄文時代の吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡は、どれも遺構が希薄で土器の出土量も少ない。このことから考えると、当遺跡は一回性の小規模なキャンプ地であったものと考えられる。

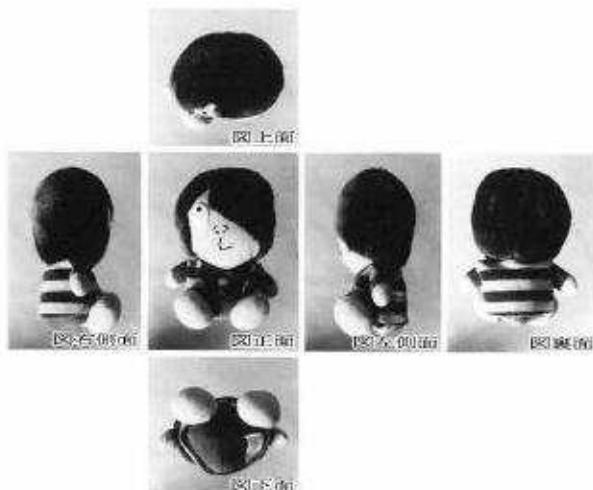
## 参考文献

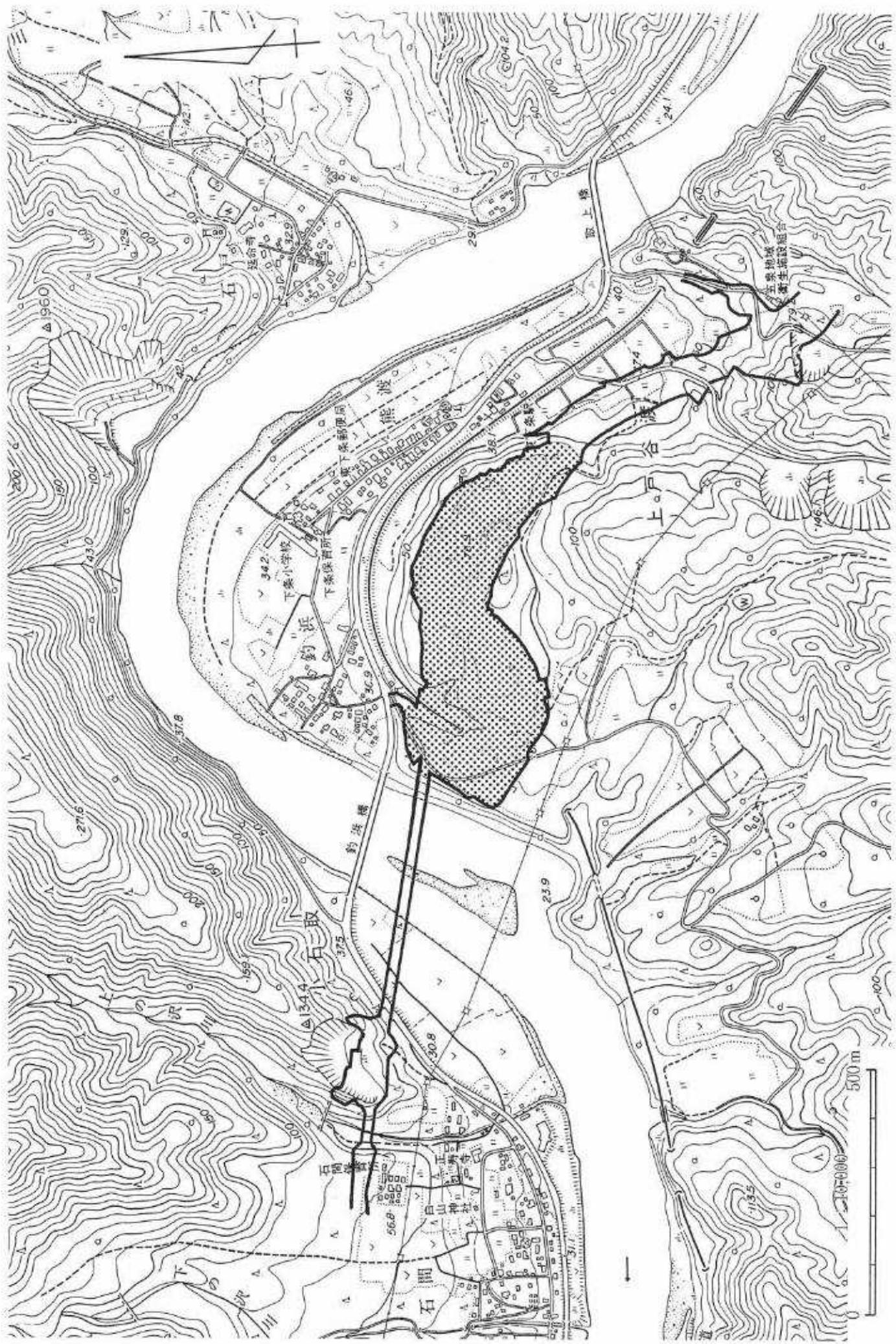
- フ 亦羽正春ほか 1994 『上郷遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 石川智紀ほか 1994 『沖ノ羽遺跡（八地区）』 新潟県教育委員会  
 石川日出志ほか 1991 『六野瀬遺跡発掘調査実績報告書』 新潟県安田町教育委員会  
 上原甲子郎 1983 『人蔵追跡第1次調査中間報告書』 新潟県五泉市教育委員会  
 小野 昭ほか 1986 『人ヶ谷岩陰第1次発掘調査概報』 新潟県上川村教育委員会  
 小田由美子ほか 1994 『関川関所跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- カ 龜井 功ほか 1994 『越野遺跡・官林遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 川上貞雄ほか 1983 『馬下船場遺跡』 新潟県五泉市教育委員会  
 小池義人ほか 1994 『細池遺跡・寺道上遺跡』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- リ 沢田 敦ほか 1994 『上ノ平遺跡A地点』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 沢田 敦 1994 「中峰遺跡・上ノ平遺跡C地点・吉ヶ沢遺跡B地点」『年報 平成5年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 鈴木俊哉ほか 1994 『一之口遺跡東地区』 新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団  
 須藤高志 1994 「北野遺跡」『年報 平成5年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- タ 高橋保雄 1993 「上川村北野縄文時代遺跡」『新潟県考古学会第5回大会研究発表要旨』 新潟県考古学会  
 游沢規朗ほか 1992 『西谷遺跡』 新潟県刈羽村教育委員会
- ナ 中村孝三郎 1960 『小瀬ヶ沢洞窟』 長岡市立科学博物館  
 二宮俊作 1973 「新潟県東蒲原地方における阿賀野川の河岸段丘について」『研究集録第6集理科教育編(2)通巻17』 新潟県立教育センター
- ハ 藤巻正信ほか 1991 『城之腰遺跡』 新潟県教育委員会  
 本間嘉晴ほか 1962 『阿賀 東蒲原郡学術総合調査報告書』 新潟県教育委員会
- シ 南 雄二 1995 「北野遺跡」『年報 平成5年度』 財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
- ヤ 柳田 誠 1981 「阿賀野川の河岸段丘」『駒沢地理第17号』 駒沢大学地質学会  
 山下 弘 1970 「柏崎-銚子線の提唱」『島弧と海洋1』 東海大学出版会

# 図版

## 凡例

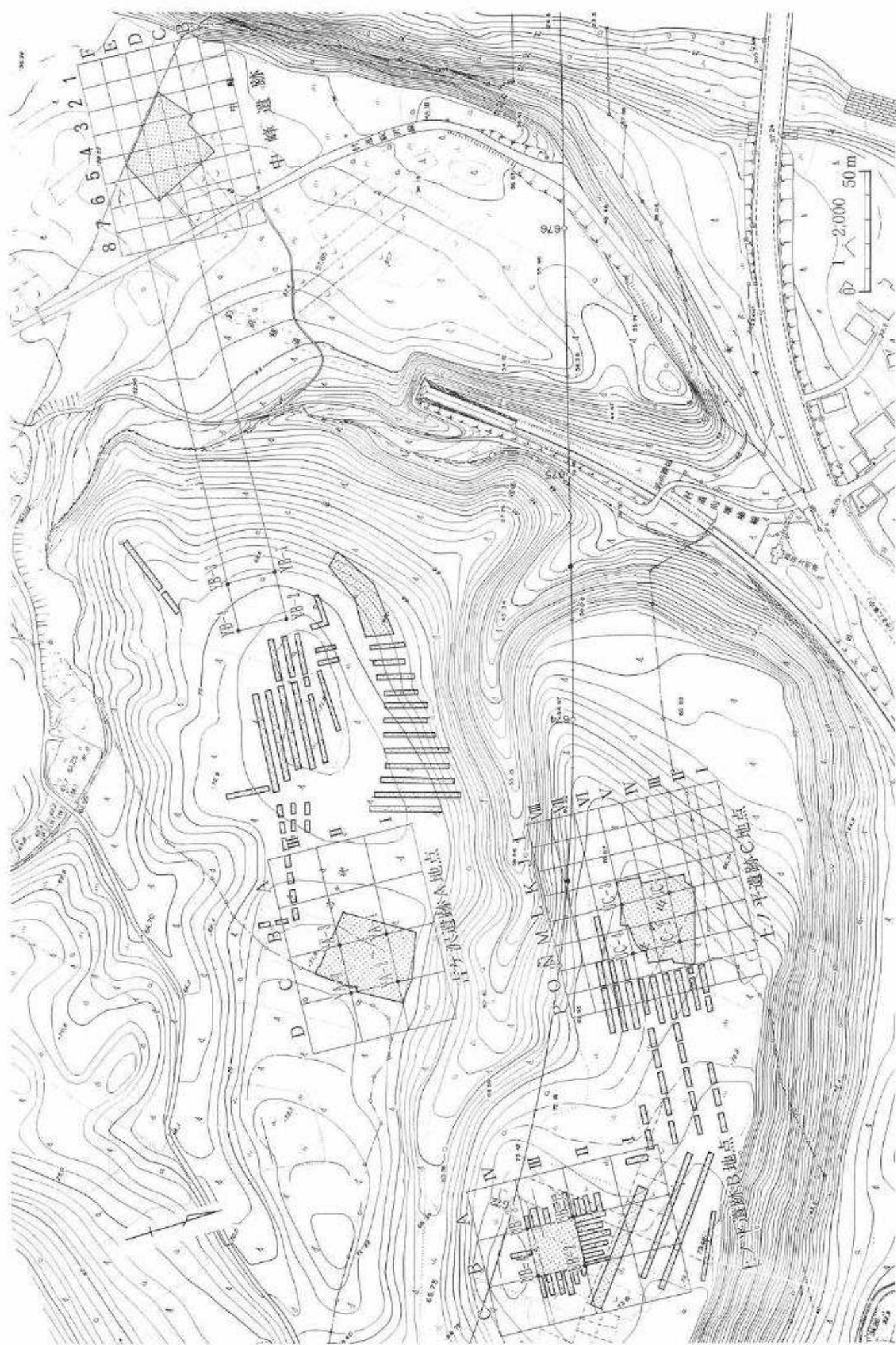
- 1 図版は図面と写真とした。
- 2 遺構・遺物の番号は、図面・写真とも各遺跡ごとに本文と共通の通し番号とした。
- 3 遺物の展開は、まず図正面を設定し、これに対して図裏面、図左・右面、図上・下面を設定した。下図のように配置した。

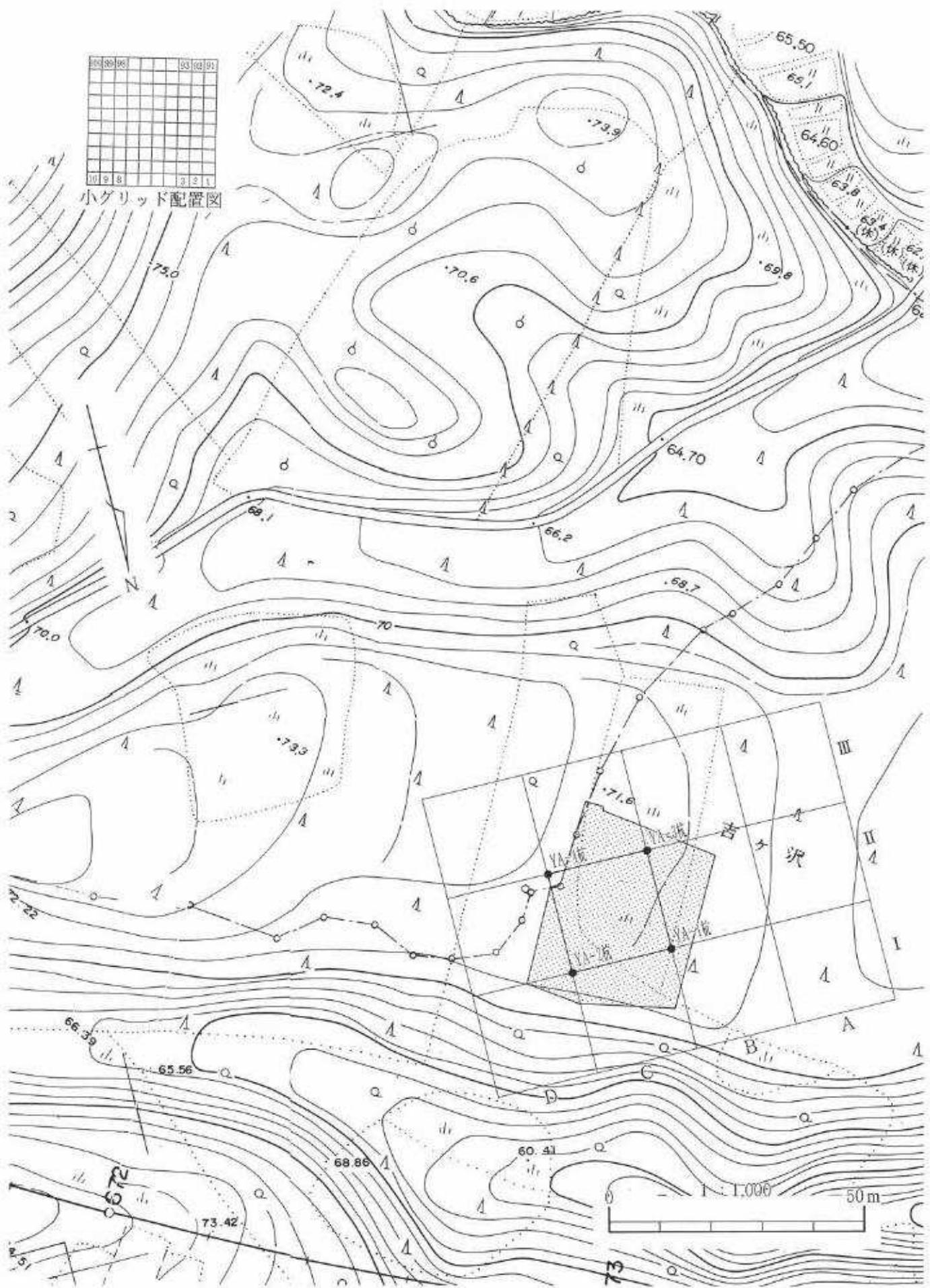




図面2

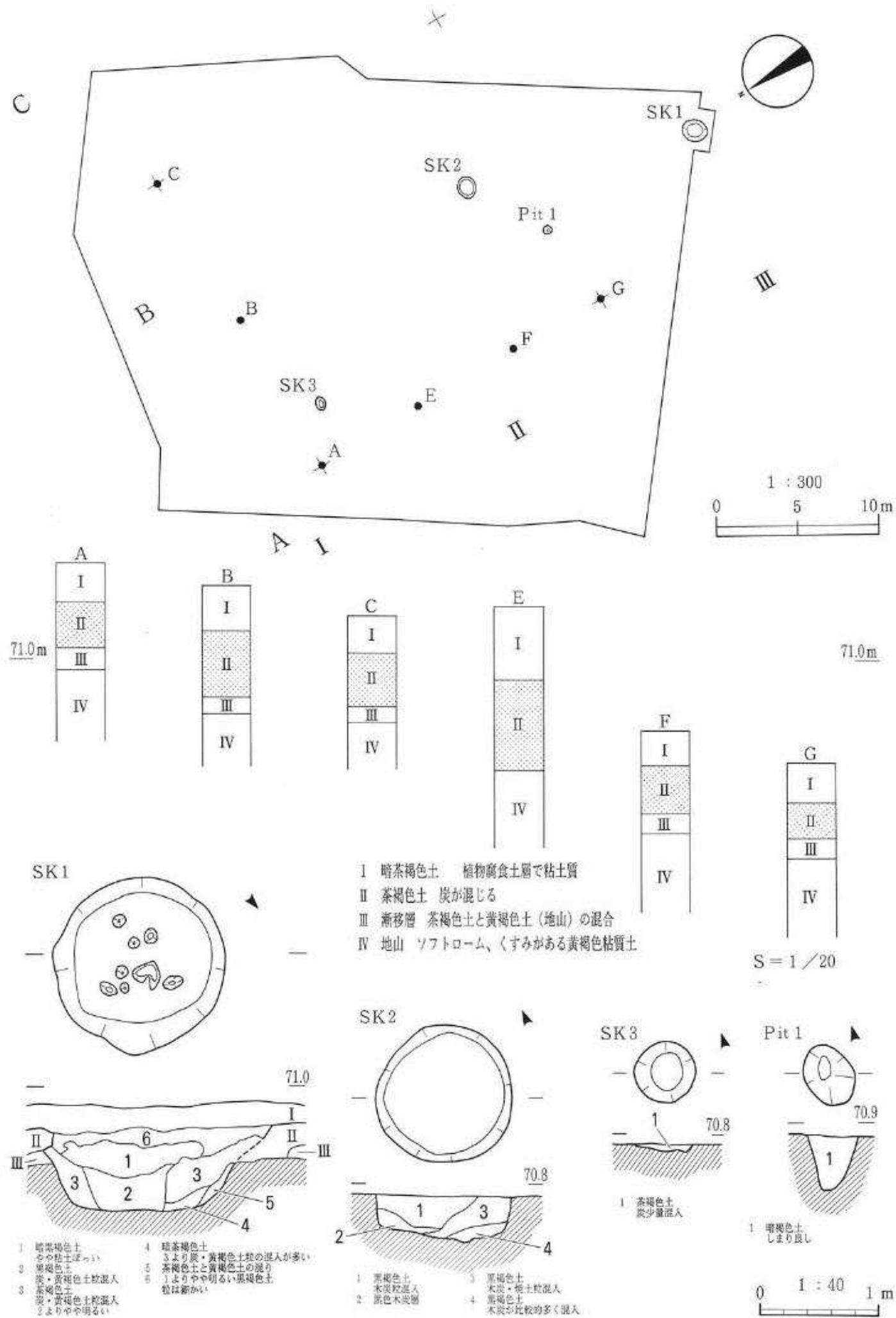
調査地点とグリッドの設定

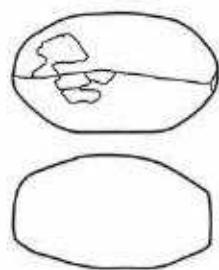
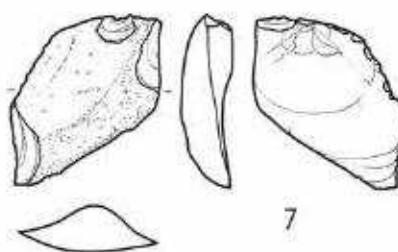
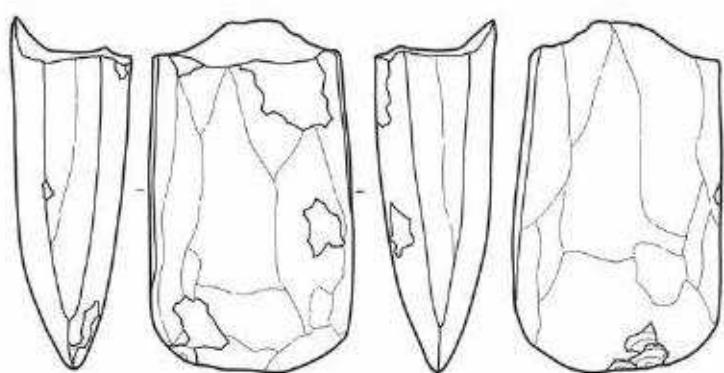
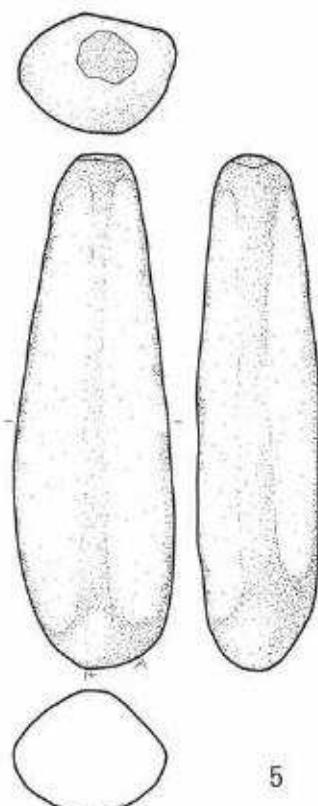
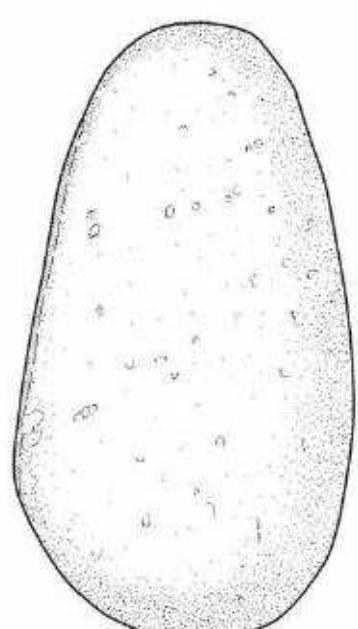
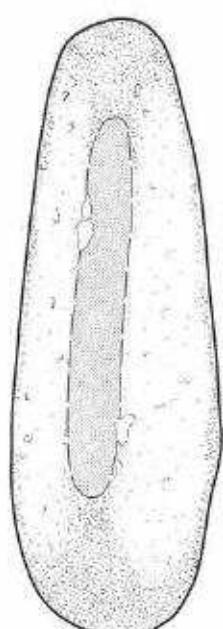
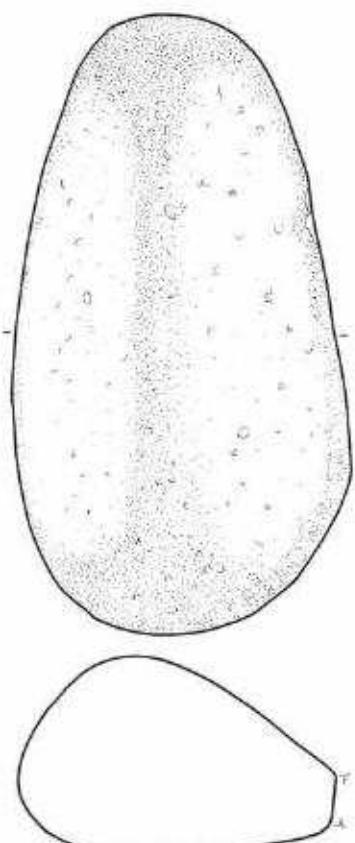
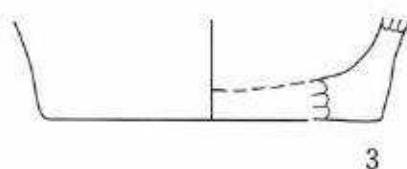
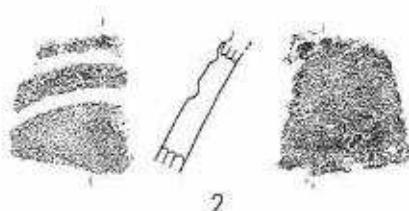
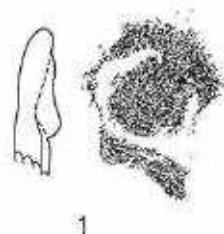




図面 4

### 吉ヶ沢遺跡A地点造構配置・標準土層・検出造構

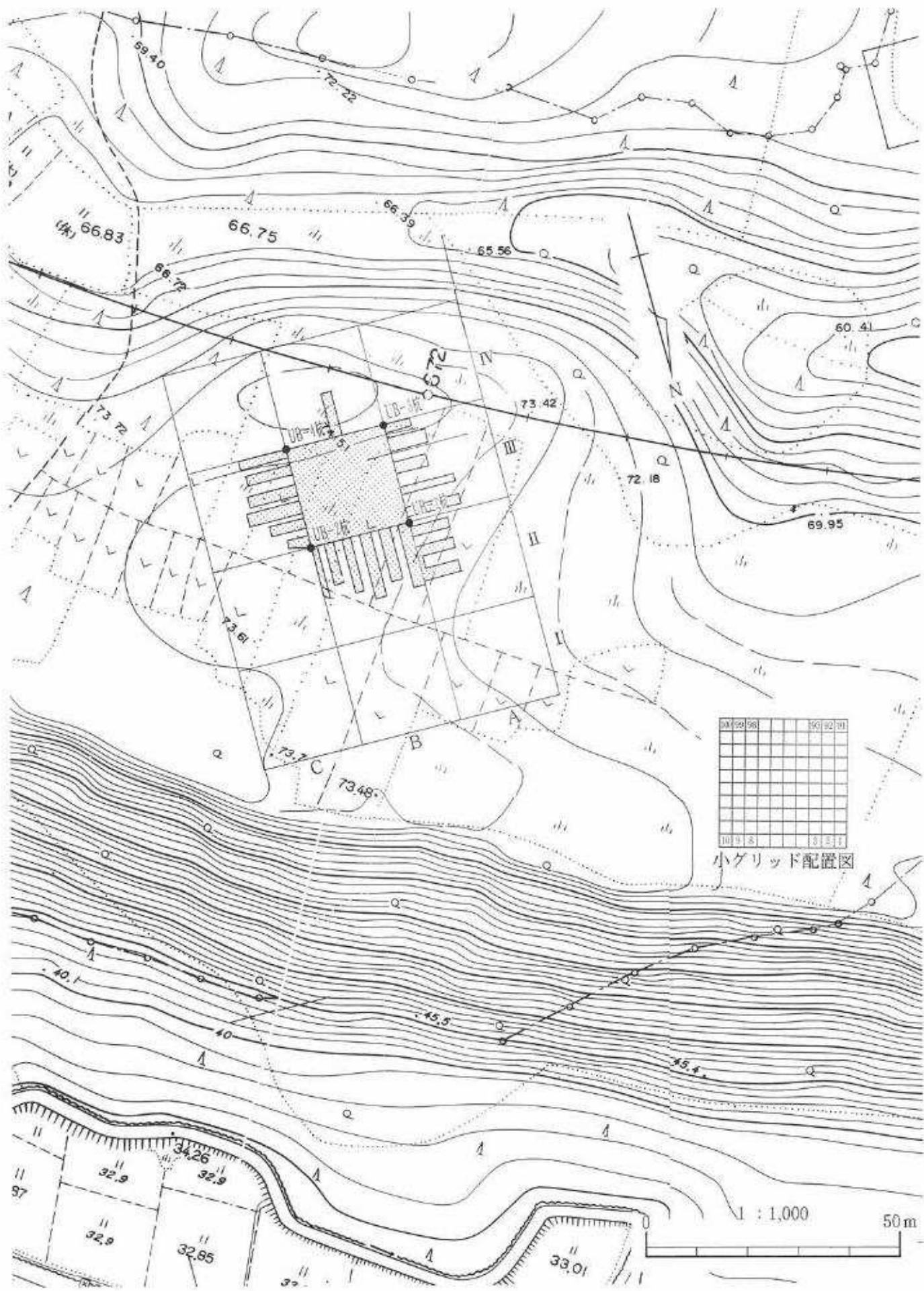


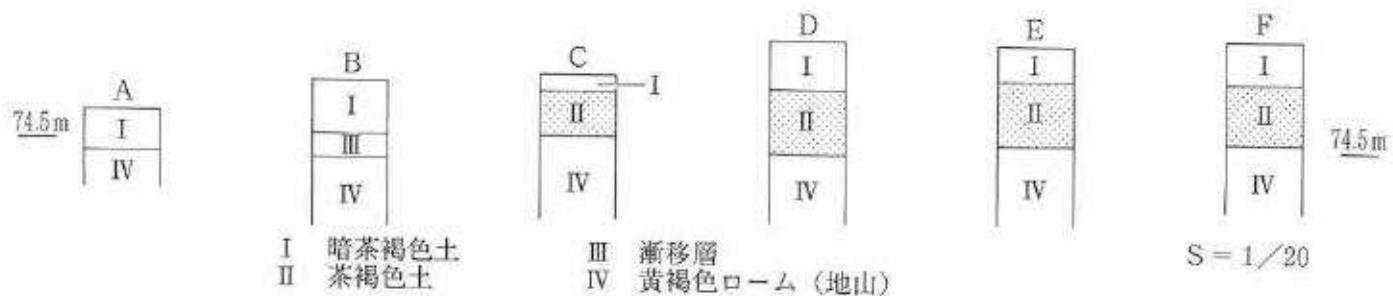
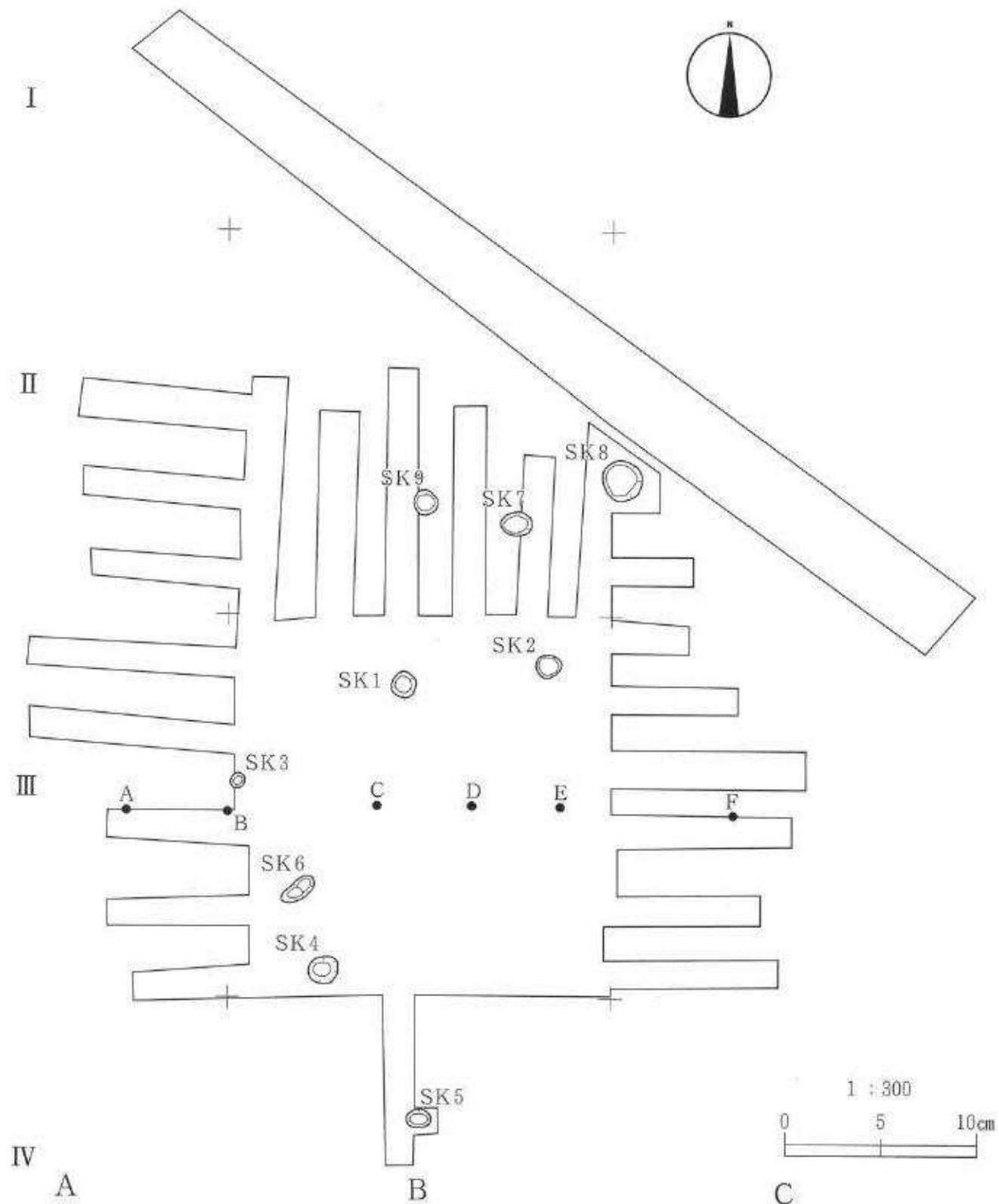


0 1 : 2 10cm

図面 6

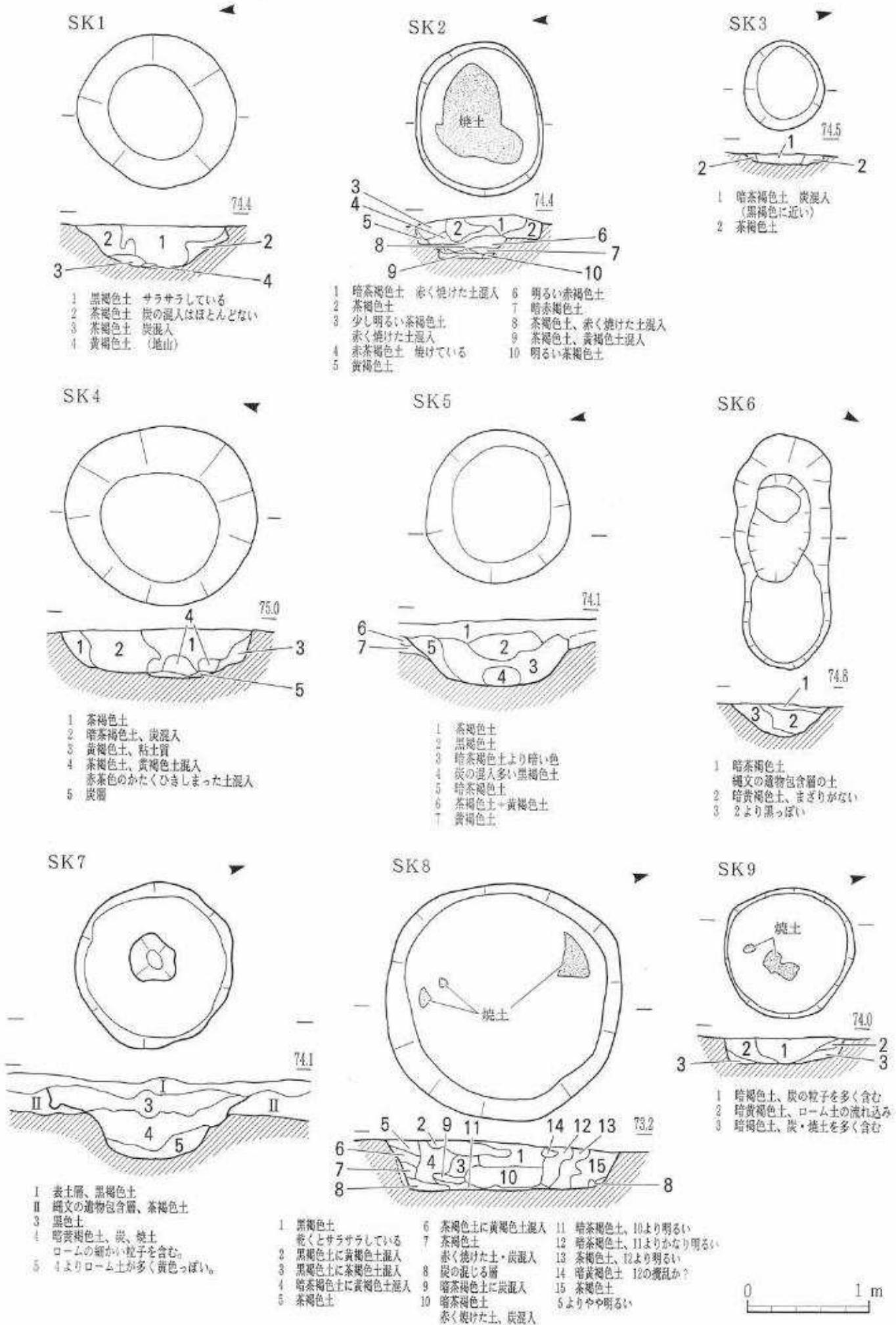
上ノ平遺跡B地点グリッド設定図

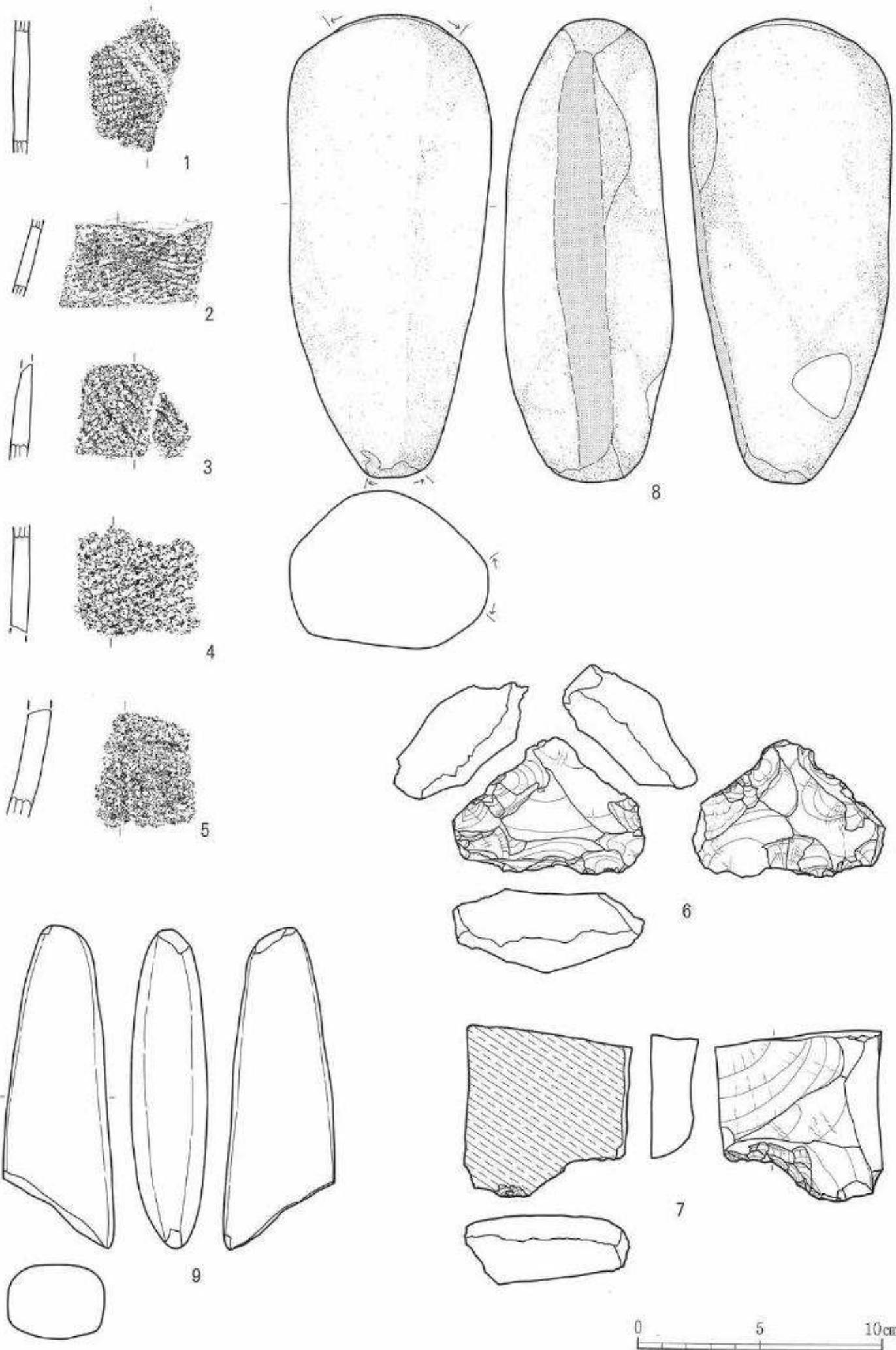




図面 8

上ノ平遺跡B地点検出遺構

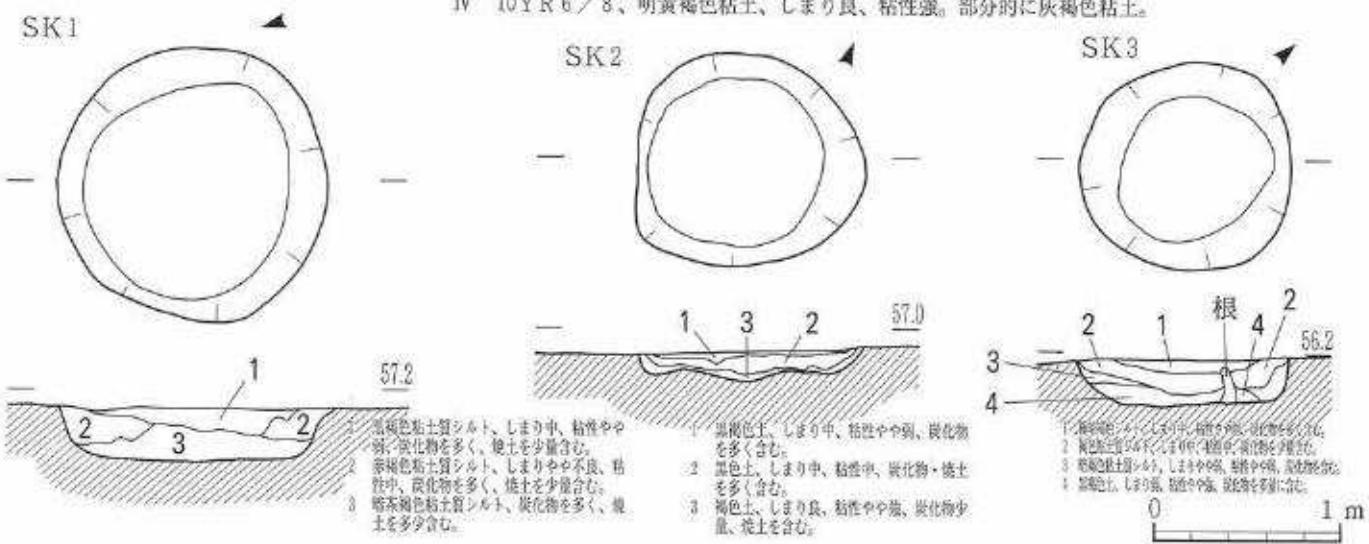
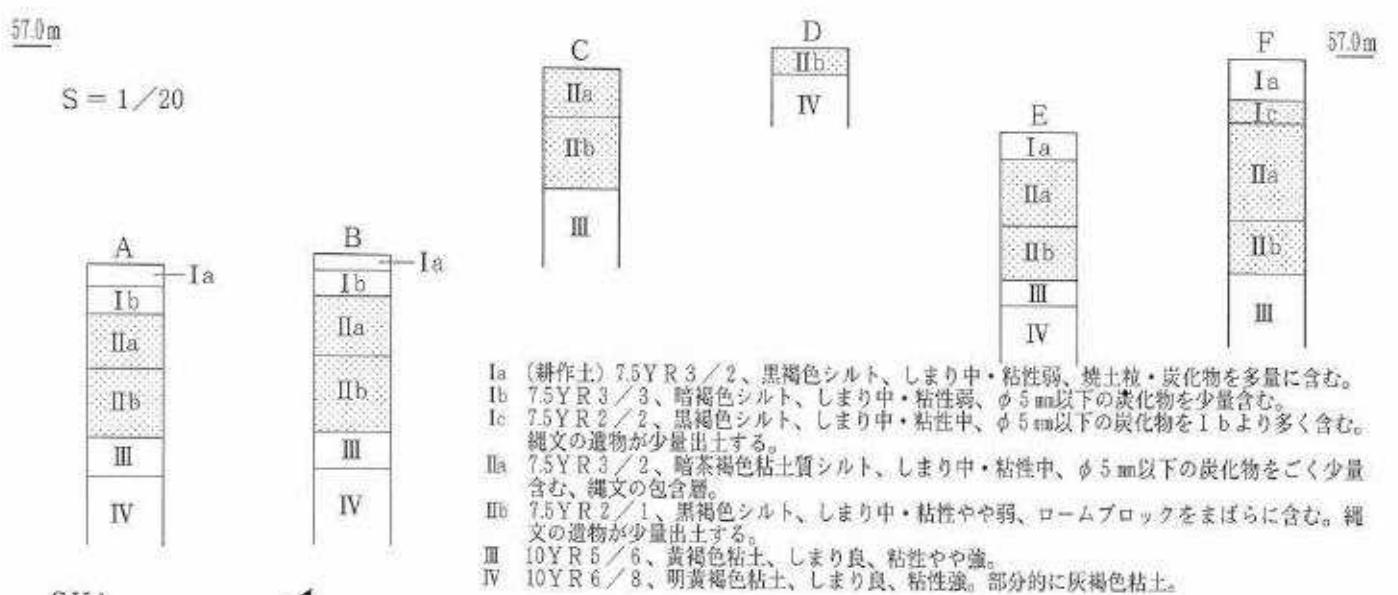
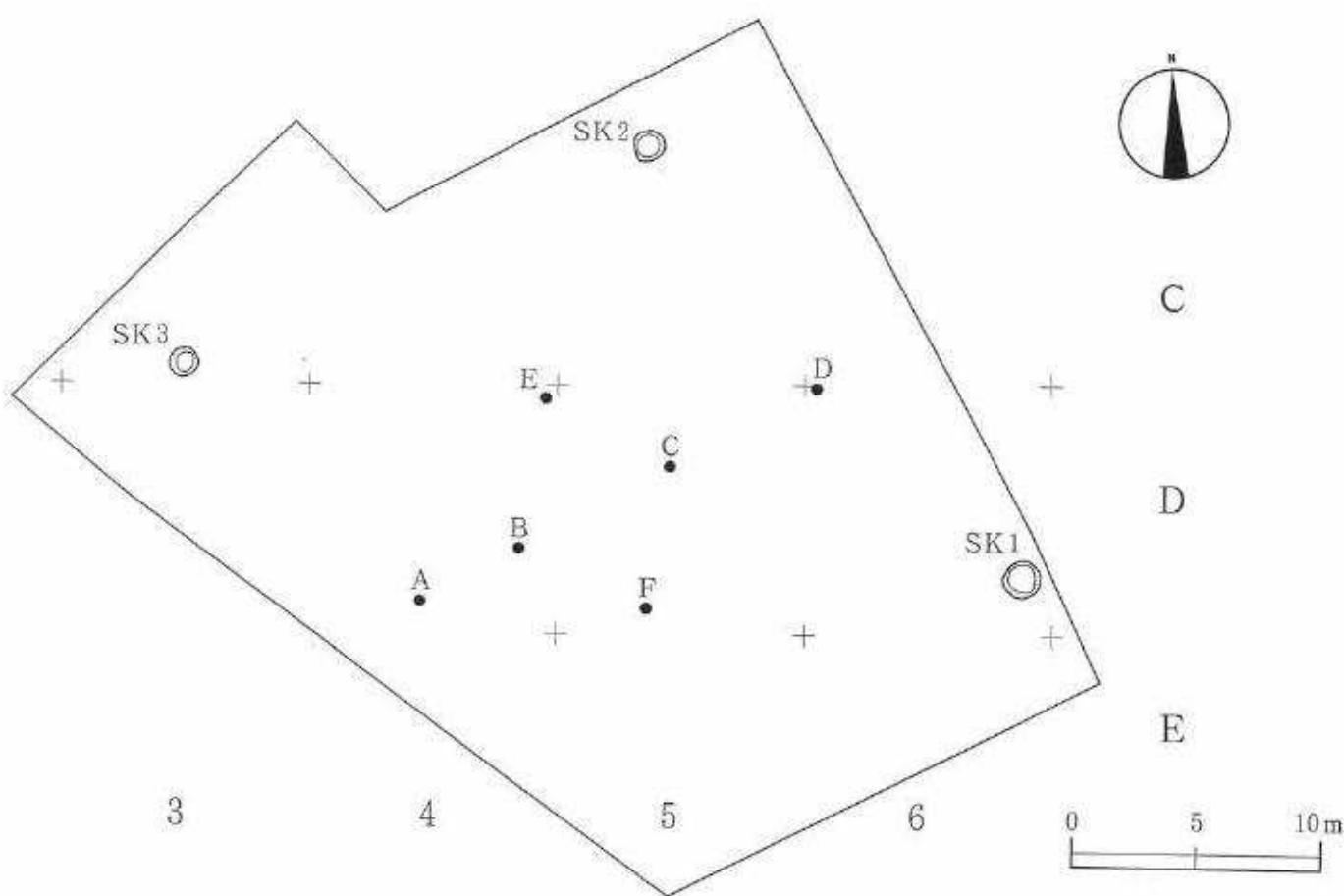


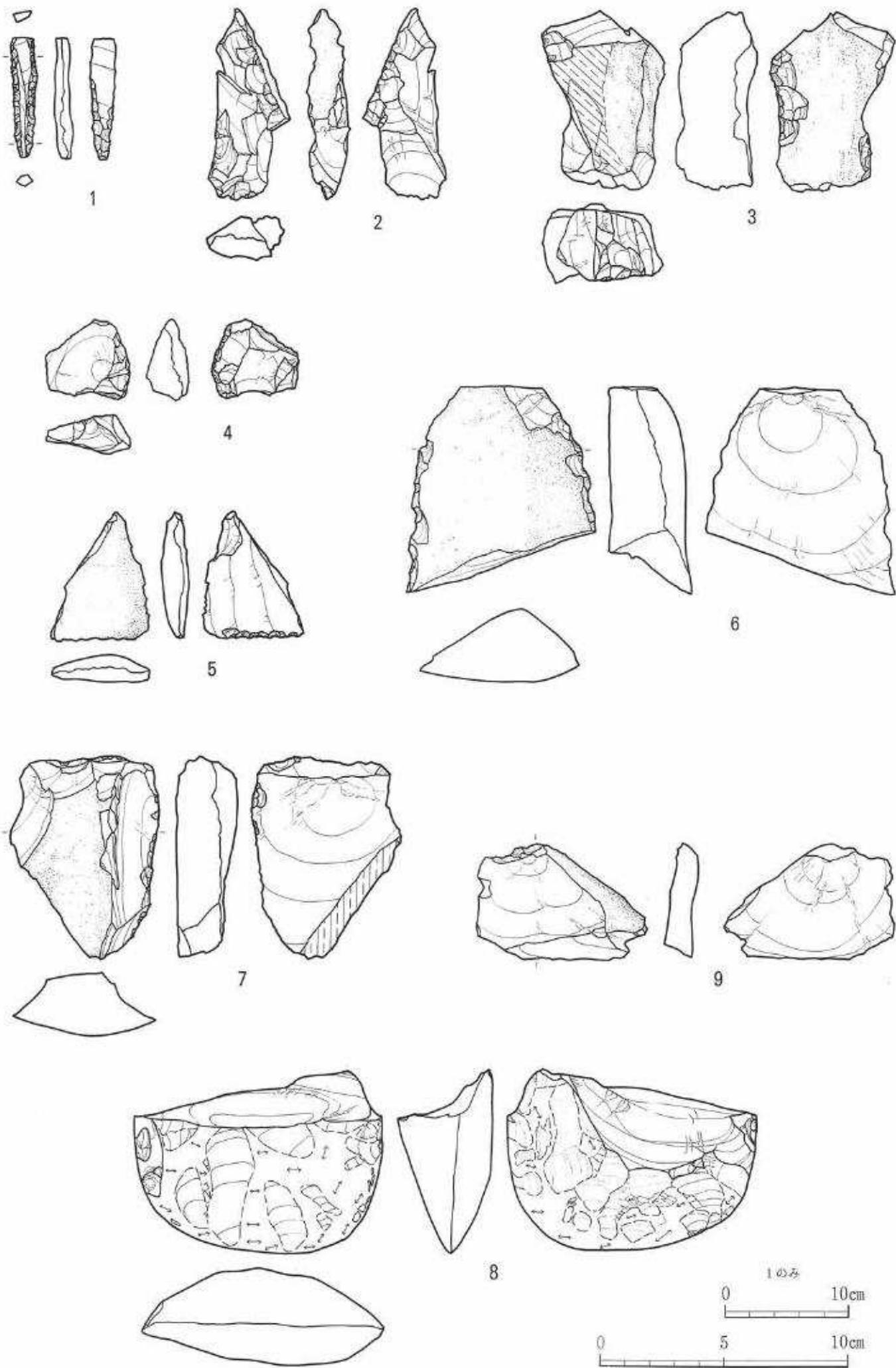


図面10

中峰遺跡グリッド設定図









1. 全 景  
(北から)



2. 完穀状況  
(東から)



3. 作業風景



4. 近 景



吉ヶ沢遺跡  
A地点

1. 完掘状況  
(南東から)



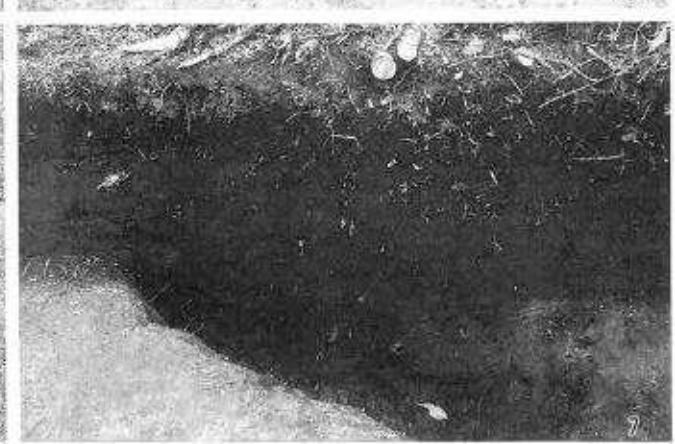
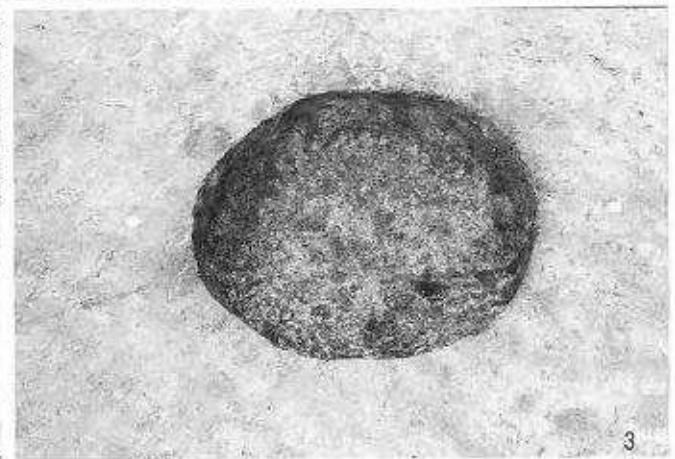
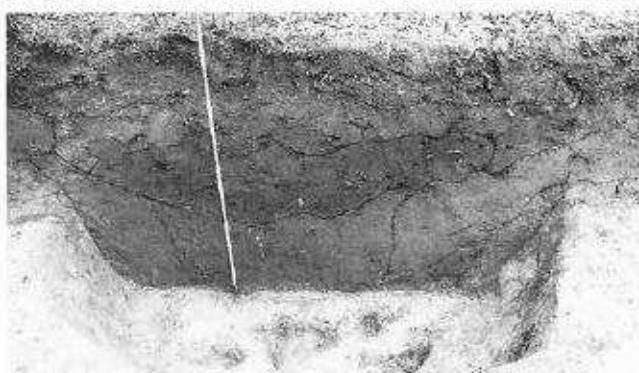
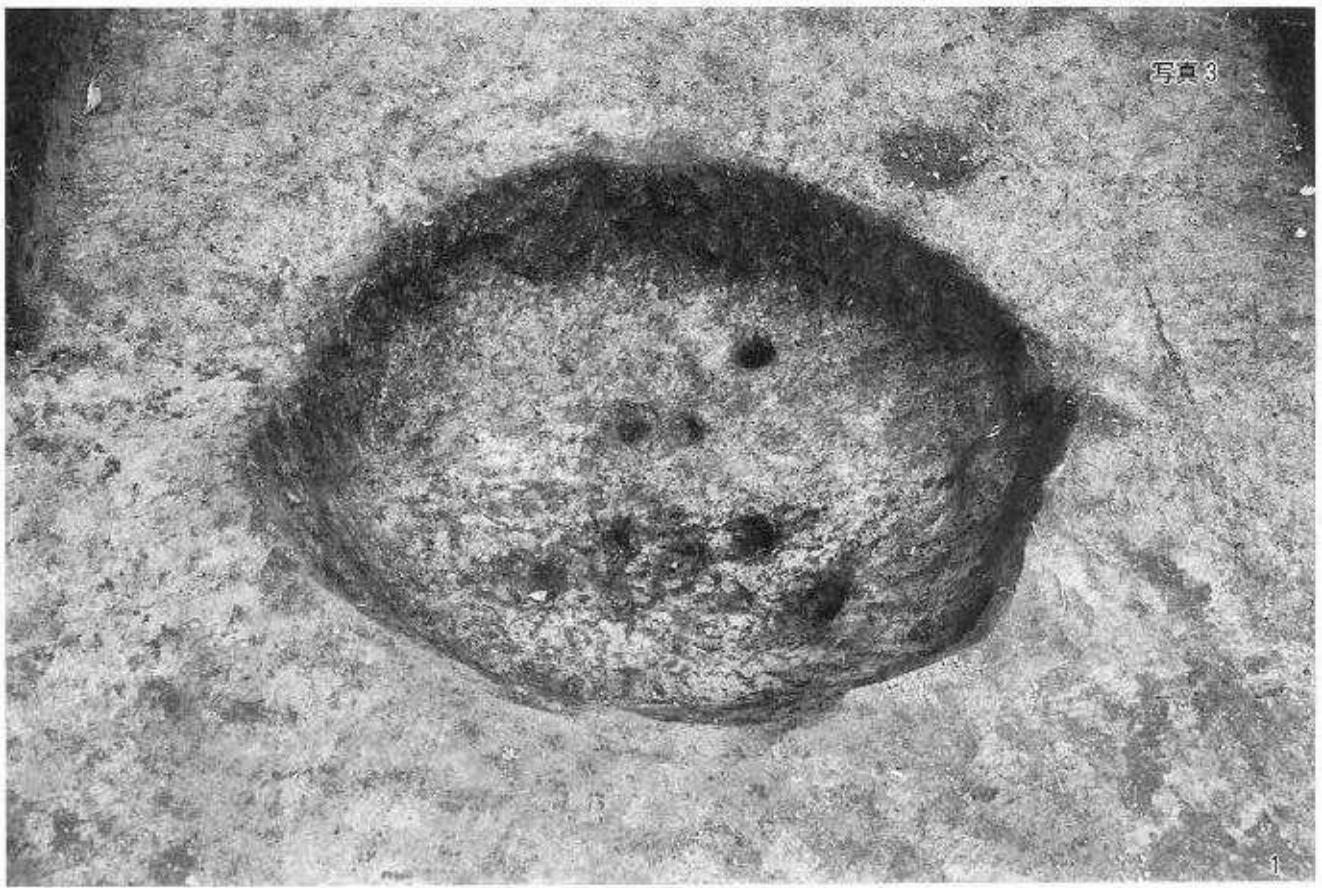
2. 完掘状況  
(南西から)

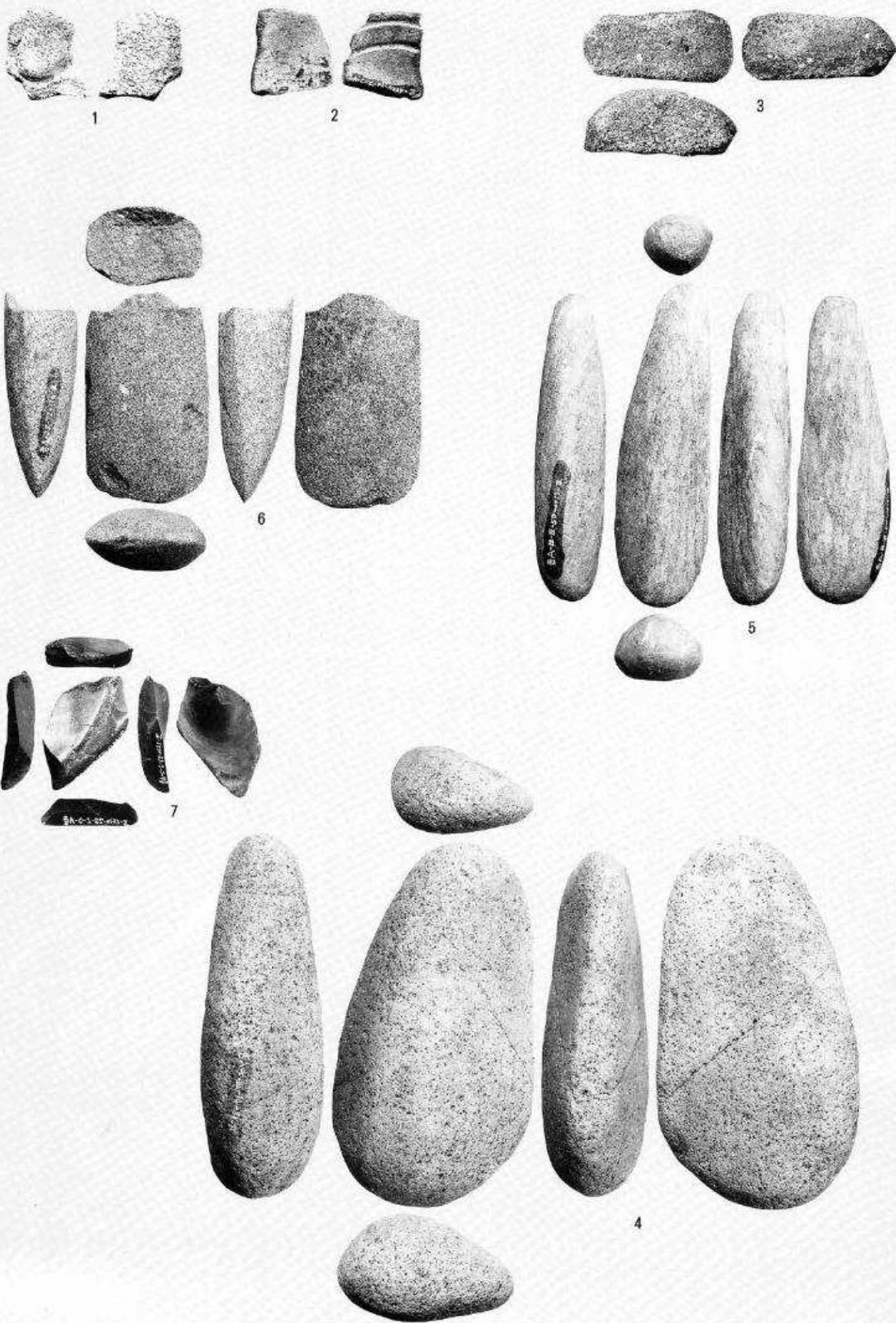


3. 標準土層



4. 下層確認





1. 全 景  
(西から)



2. 全 景  
(東から)



3. 全 景  
(北から)



4. 北側トレンチ  
(東から)





1. 完掘状況  
(南西から)



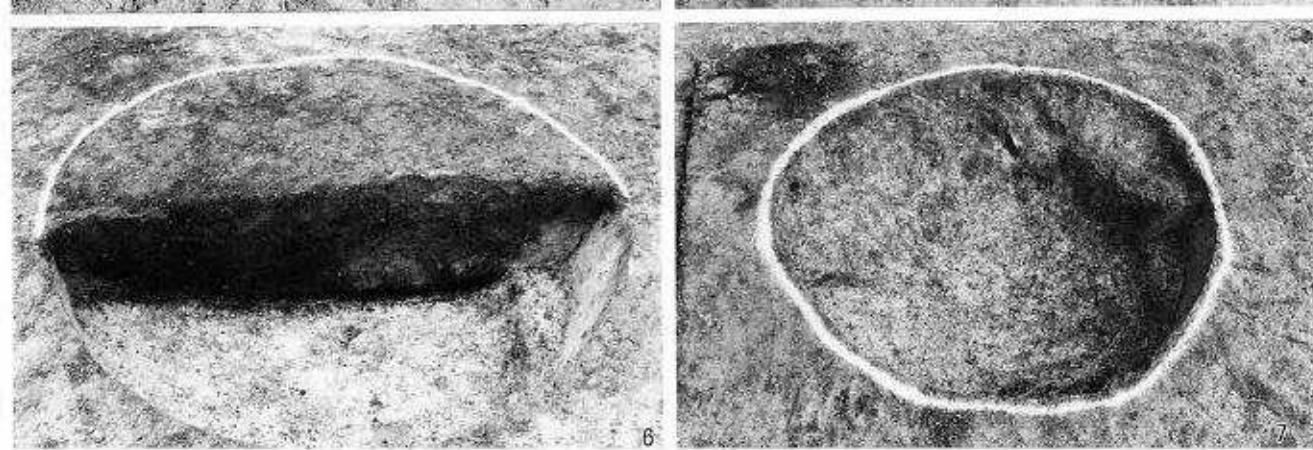
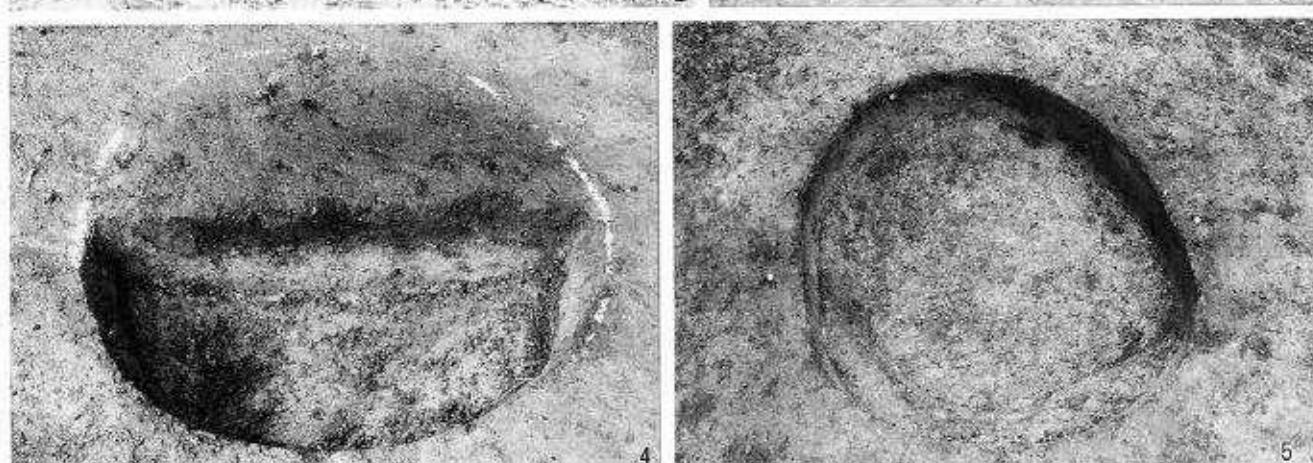
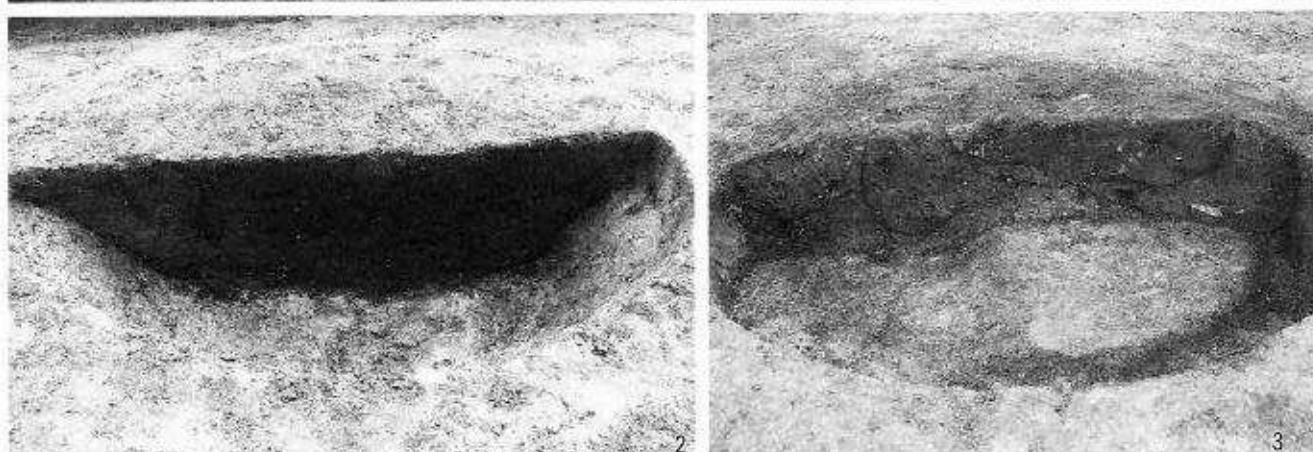
2. 完掘状況  
(南から)

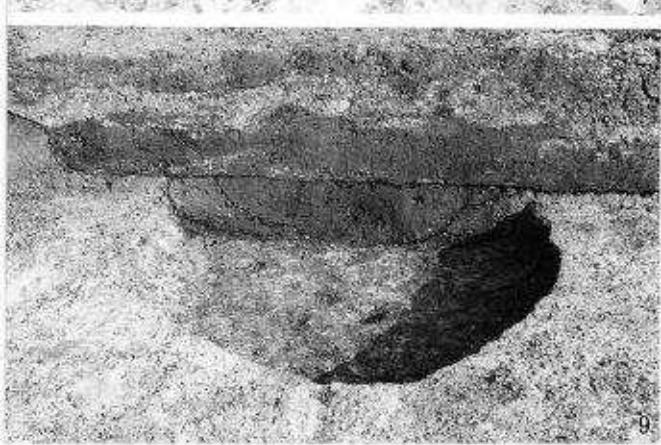
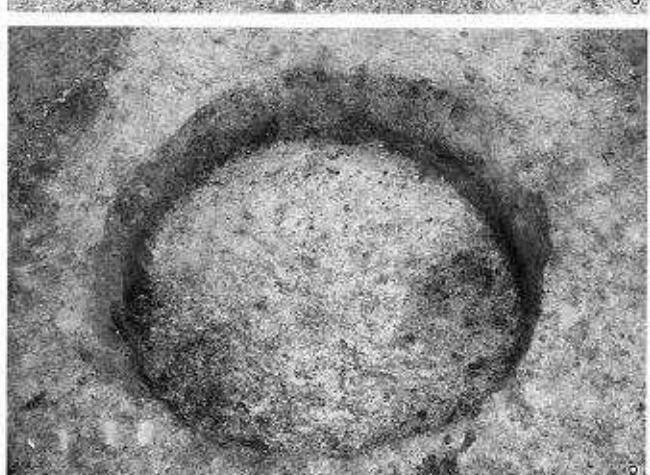
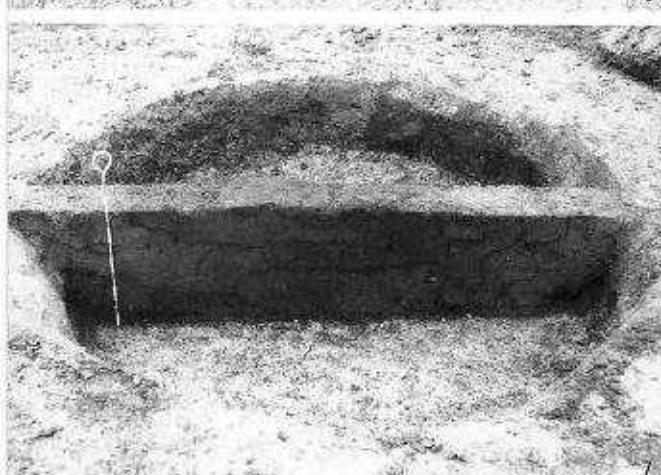
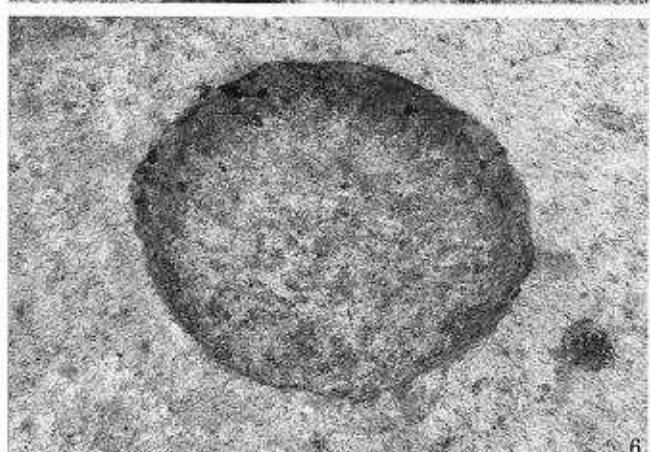
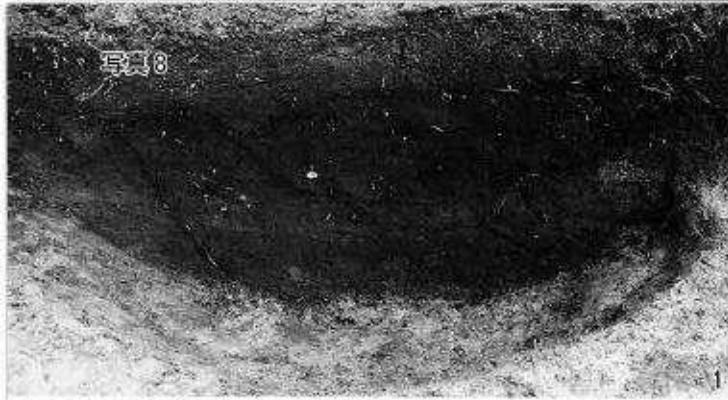


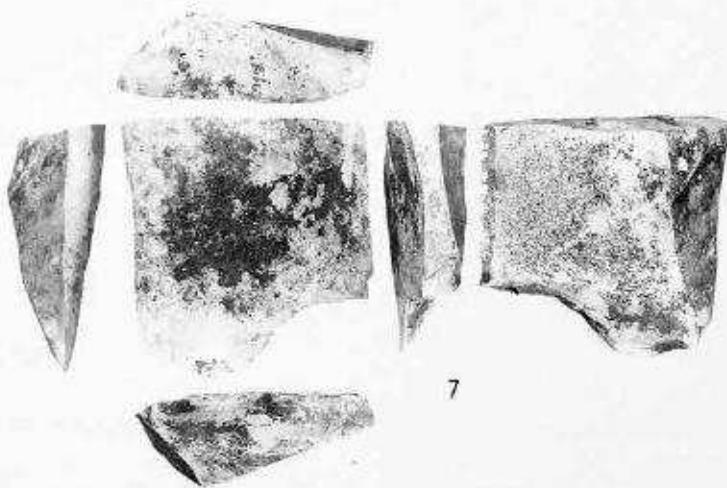
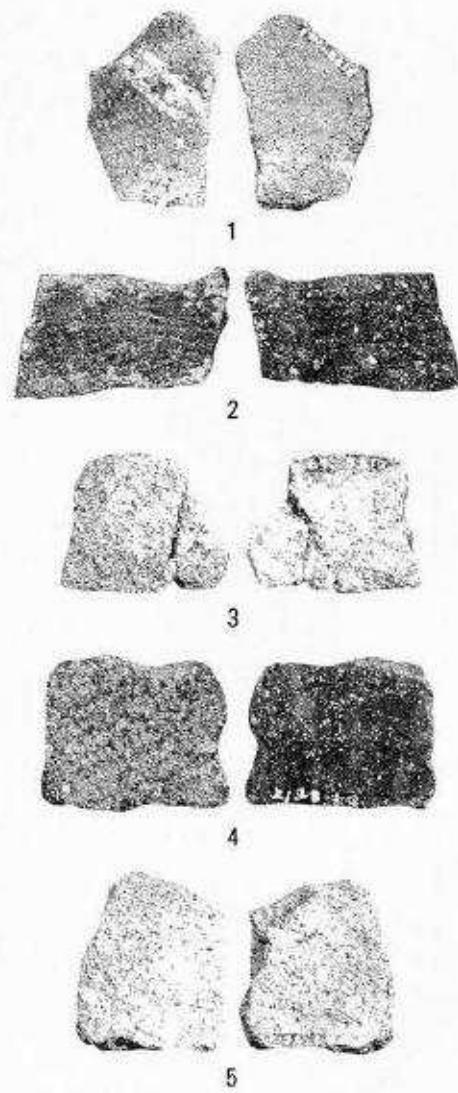
3. SK 2焼土  
検出状況  
(西から)



4. SK 2焼土  
断面  
(西から)





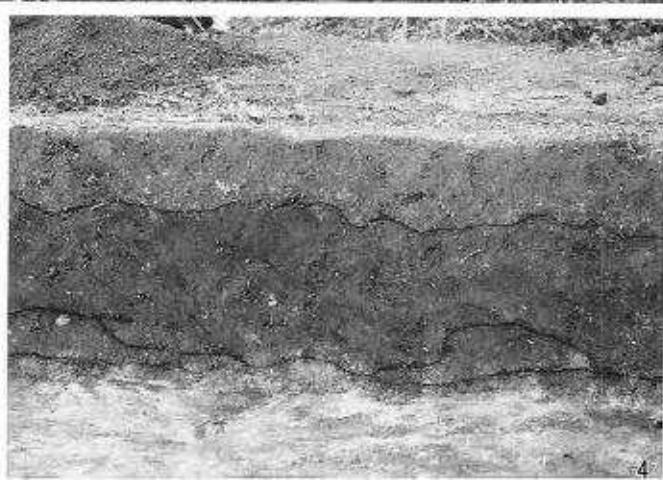




1. 遠 景  
(東から)



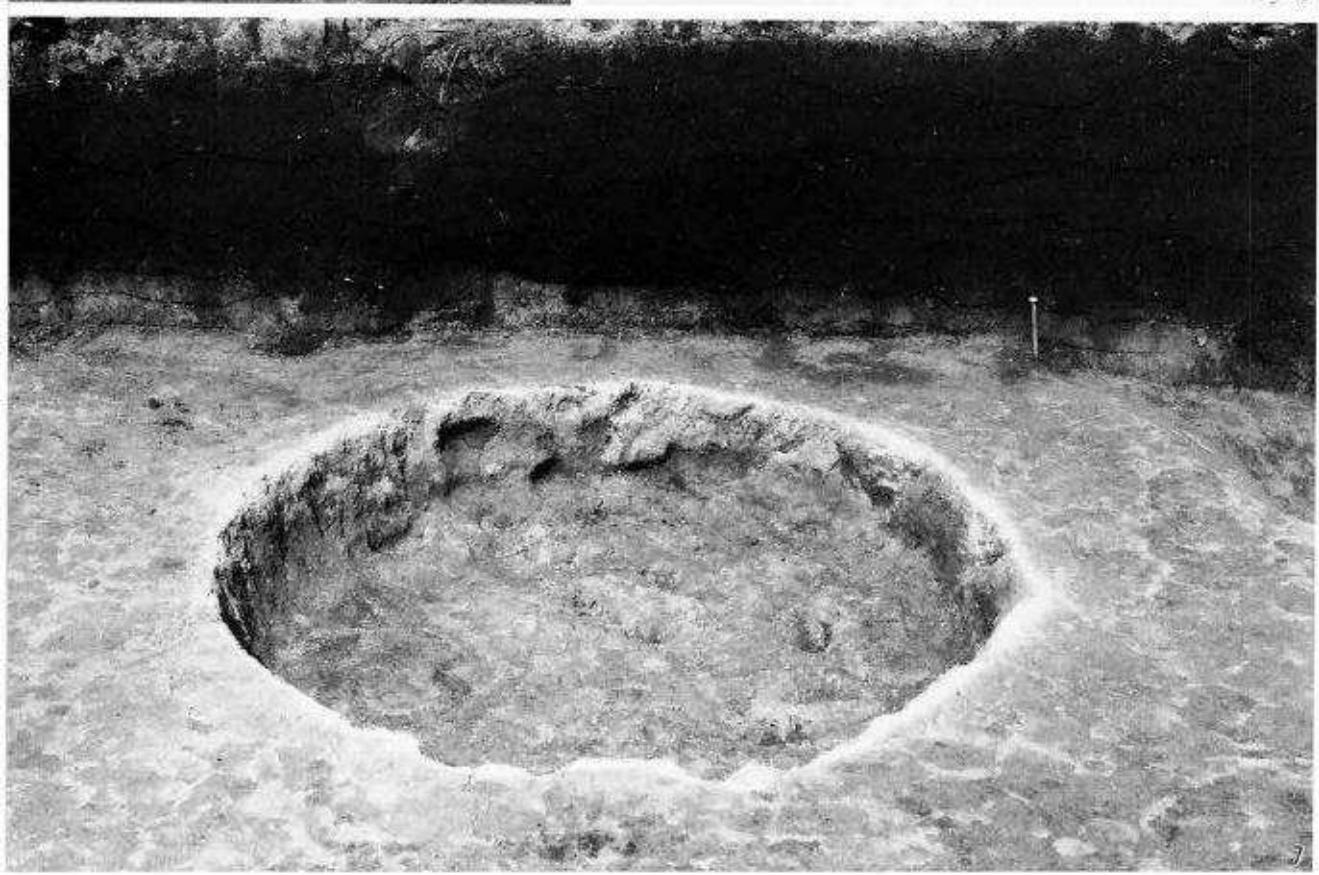
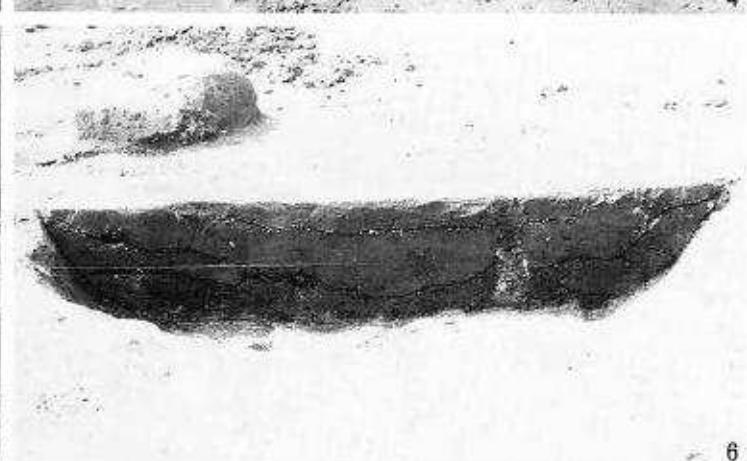
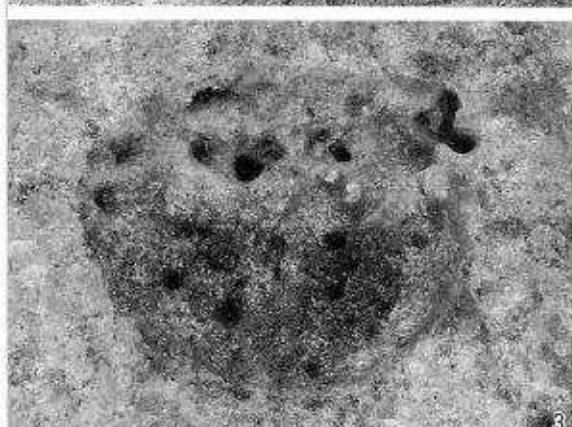
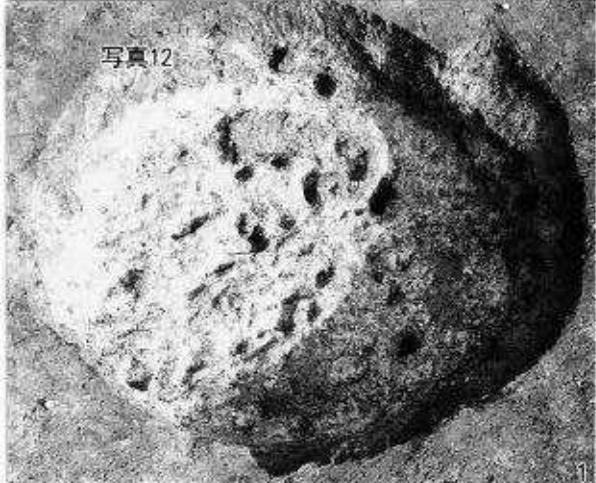
2. 発掘前全景  
(北から)



3. 作業風景

4. 標準土層







## 報告書抄録

	よし が さわい せき A ち てん・うえ の たいら い せき B ち てん・なか みね い せき							
書名	吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡							
副書名	磐越自動車道関係発掘調査報告書							
シリーズ名	新潟県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第71集							
編著者名	藤巻正信・大川原英智・関洋介							
編集機関	財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒950 新潟県新潟市一番堀通町5923-46 TEL 025-223-5642							
発行年月日	1996年2月29日							
所収遺跡名	所在地	コード 市町村	北緯 度 分 秒	東経 度 分 秒	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因	
吉ヶ沢遺跡 A地点	新潟県東蒲原郡 三川村大字上戸谷渡 字吉ヶ沢 6304ほか	384	25	37度 44分 03秒	139度 19分 15秒	第一次調査 1990.11.19～1990.12.07 第二次調査 1991.08.26～1991.09.26	960	磐越自動車道 三川サービス エリア建設に 伴う事前調査
上ノ平遺跡 B地点	新潟県東蒲原郡 三川村大字上戸谷渡 字上ノ山 2305-8ほか	384	24	37度 44分 08秒	139度 19分 20秒	第一次調査 1990.11.19～1990.12.07 第二次調査 1991.10.01～1991.11.22	1,600	同上
中峰遺跡	新潟県東蒲原郡 三川村大字小石取 字中峰 4710ほか	384	26	37度 44分 05秒	139度 19分 00秒	第一次調査 1990.11.26～1990.12.01 第二次調査 1993.04.12～1993.05.28	760	磐越自動車道 釣浜大橋東詰 建設に伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
吉ヶ沢遺跡 A地点	散布地	縄文時代		縄文土器 石器	炭焼き窯3基 ピット1基			
上ノ平遺跡 B地点	散布地	縄文時代		縄文土器 石器	炭焼き窯8基 土坑1基			
中峰遺跡	散布地	縄文時代		縄文石器	炭焼き窯3基			

新潟県埋蔵文化財調査報告書 第71集  
**磐越自動車道関係発掘調査報告書**  
 吉ヶ沢遺跡A地点・上ノ平遺跡B地点・中峰遺跡

平成8年2月29日印刷 発行・編集 新潟県教育委員会  
 平成8年2月29日発行

〒950 新潟市新光町4-1

TEL 025(285)5511

FAX 025(284)9396

財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒960 新潟市一番堀通町5923-46

TEL 025(263)2088

FAX 025(228)1762

印 刷 協 双 葉 印 刷

〒950 新潟市網川原1-4-13

TEL 025(283)7373